

(3) 沖縄県観光産業実態調査

①調査目的

- ・ 沖縄県の観光産業の持続的発展を図るため、宿泊業、飲食業、レンタカー業、観光関連事業者の現状と課題を把握(DI※)し、産業基盤の強化、及び雇用環境の改善に繋がる施策立案に資することを目的に実施されている。

※DI(Diffusion Index) 企業の業況感や、設備、雇用人員の過不足などの各種判断を指数化したもの

②調査結果より（北部地域におけるデータ分析について）

- ・ 当該調査結果では、観光客数は令和4年(2022年)10月以降、国の全国旅行支援や複数の航空路線の運航再開等の措置により約600万人まで回復しており、引き続き好調に推移するとみられている。(図2-3参照)特に同年7月から9月はコロナによる行動制限のない観光トップシーズンとなり、「全業種・エリア」においてDI(好景感)が大きく上昇している。これを踏まえ、下記に整理する。

設備投資は下降 図2-4参照

- ・ エネルギーや原材料価格など物価高騰による影響で、「原材料の仕入・販売価格 DI」が上昇しており、これに対応する形で、「生産・販売などの設備投資 DI」は下降している。

需要は高いが人材不足 図2-5・2-6・2-7参照

- ・ 7月から9月のトップシーズンは、直前の4月から6月を含め、「利用者数 DI」は上昇したにも関わらず、「正規・非正規従業員」においてマイナスの底をついており、深刻な人材不足となっていることが分かる。
- ・ 「利用者数 DI」と「正規・非正規従業員 DI」についてエリア別データを抜粋併載比較した。特に利用者数では「北部エリア」が一番高く、66.7ポイントとなっており、「正規・非正規従業員」では、「北部エリア」は-44.4ポイントと、他3エリアよりかなり低いことが分かる。「利用者数」、つまり需要は高いが、対する人材が不足していると考えられる。

正規・非正規従業員の業種別比率は北部地域の強みから、正規で「宿泊」「文化」、非正規でも「宿泊」が低比率 図2-8参照

- ・ トップシーズンのピーク時(令和4年(2022年)7-9月期)における「業種別 従業員 正規・非正規 DI」比較では、最も低い順に4項目をあげると、「正規従業員」では「旅客輸送サービス」、「宿泊サービス」、「輸送設備レンタルサービス」、「文化サービス」となっている。
- ・ 「非正規従業員」では「スポーツ・娯楽サービス」、「宿泊サービス」、「旅客輸送サービス」、「飲食サービス」の順で比率が低い状況となっている。

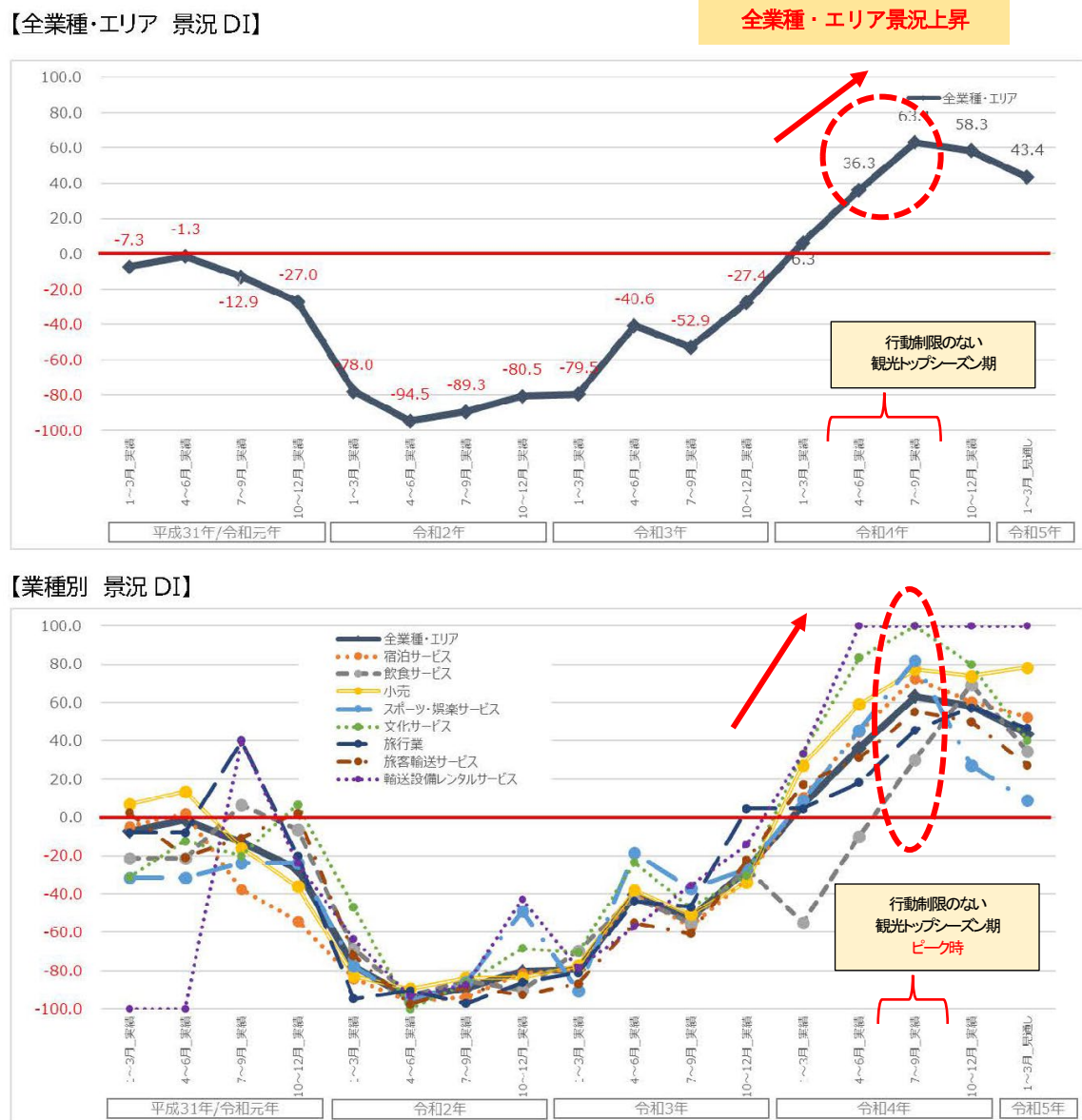
※なお、エリア別・業種別のデータはない

今後の分析に向けて

- 本調査のように、産業別・エリア別比較調査の蓄積から、北部地域を詳細区分しそれぞれのデータを抽出比較できれば、新たな商品開発（観光ルートや土産品など、各種コンテンツ）をはじめ、これまでより踏み込んだ観光関連方策の検討が可能と考えられる。
- より実態に沿ったデータは、商品開発のみでなく、災害時や入域客が多くなるイベント時の人材配置策といった対応も期待できると考えられる。

参考(抜粋再編)

図:2-3

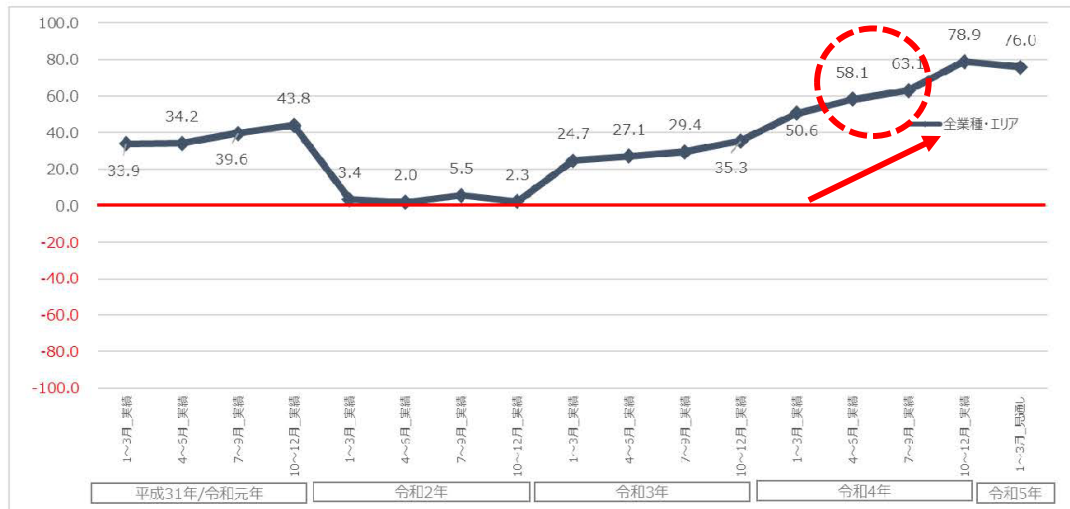


出典：令和5年3月沖縄県文化観光スポーツ部

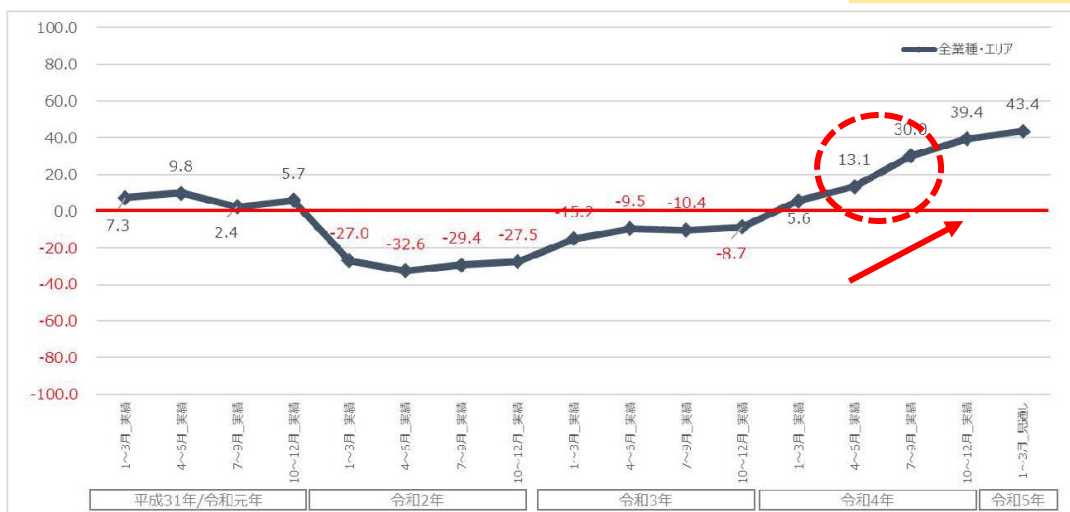
図:2-4

● 原材料の仕入価格・生産・販売などの設備投資 DI

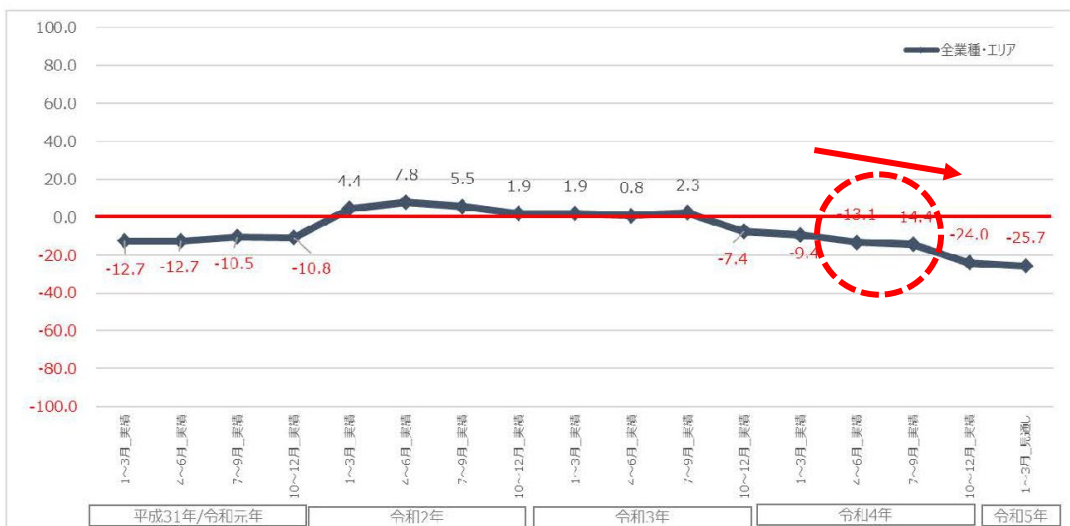
【原材料の仕入価格 DI】



● 販売価格 DI



【生産・販売などの設備投資 DI】



出典：令和5年3月沖縄県文化観光スポーツ部

図:2-5

【利用者数(国内)DI】

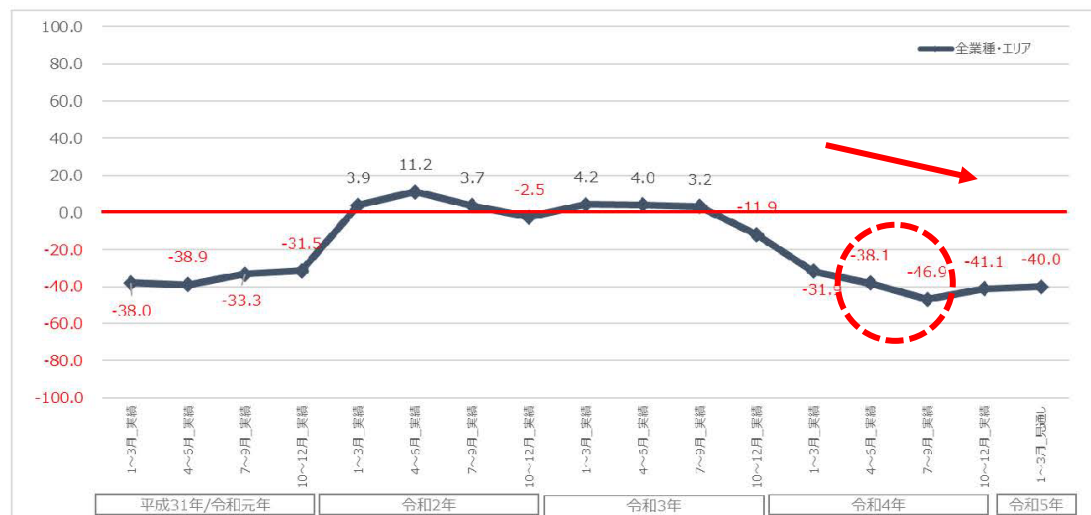
利用者数上昇



● 従業員(正規・非正規)DI

【従業員(正規)DI】

正規雇用下降



【従業員(非正規)DI】

非正規雇用下降



出典：令和5年3月沖縄県文化観光スポーツ部

図:2-6

【利用者数 DI のエリア別比較】

(利用者数 DI)

北部エリア



(利用者数 DI)

那覇エリア



(利用者数 DI)

中部エリア



(利用者数 DI)

南部エリア



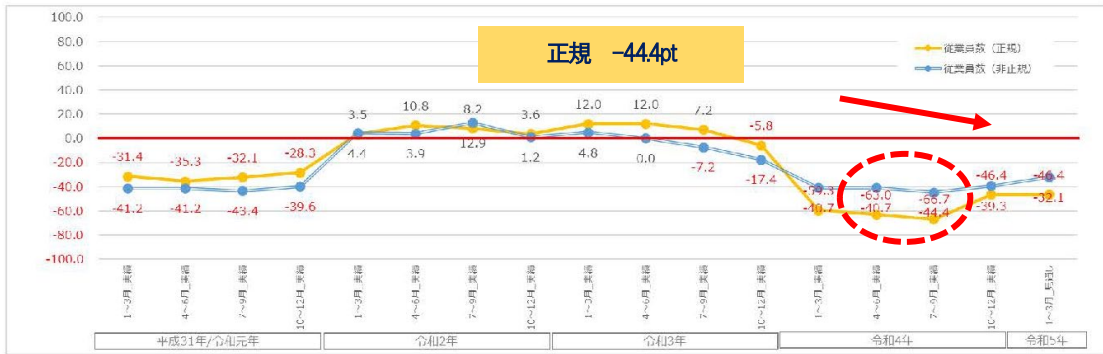
出典：令和5年3月沖縄県文化観光スポーツ部

図:2-7

【正規・非正規雇用DIのエリア別比較】

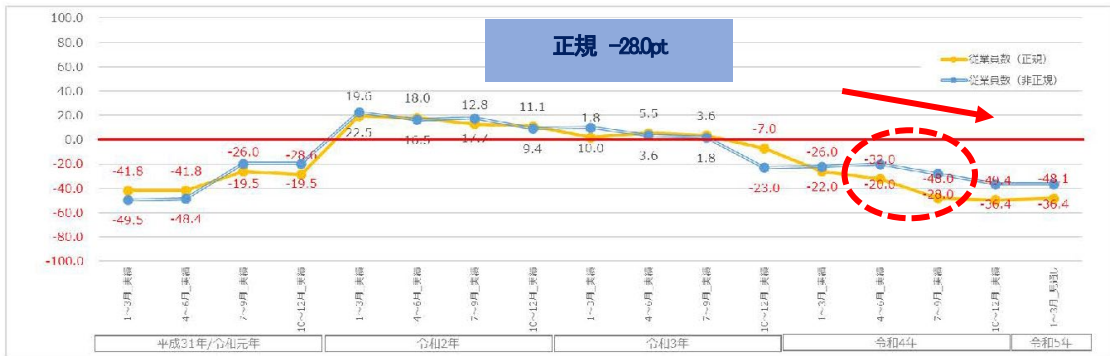
(従業員(正規・非正規)DI)

北部エリア



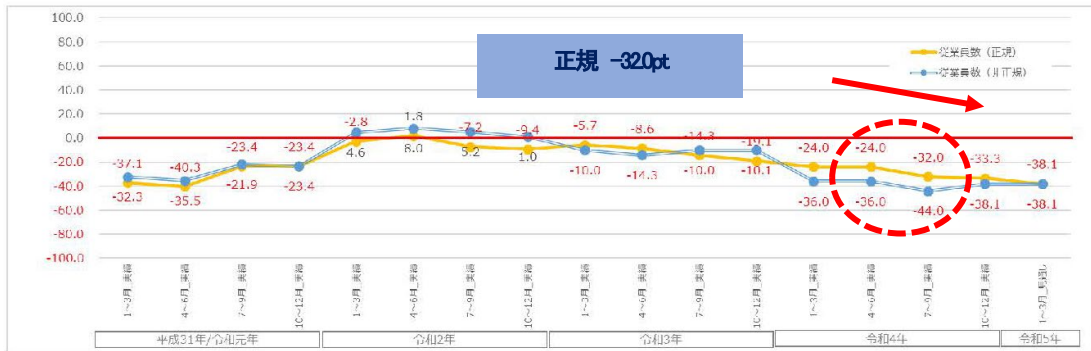
(従業員(正規・非正規)DI)

那覇エリア



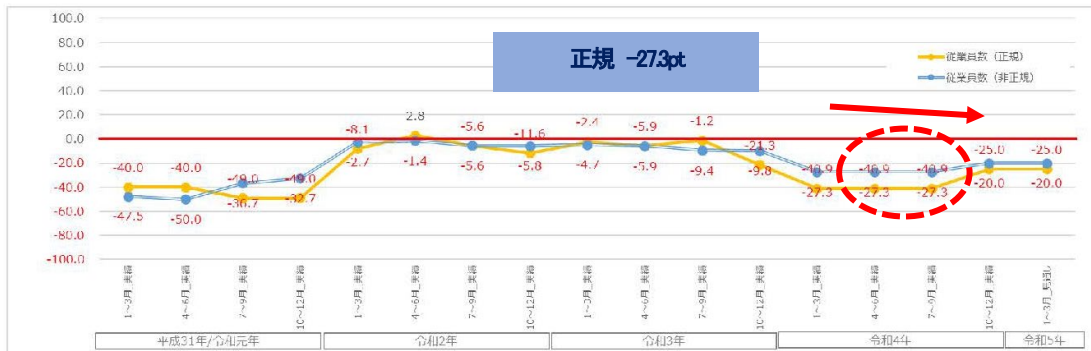
(従業員(正規・非正規)DI)

中部エリア



(従業員(正規・非正規)DI)

南部エリア

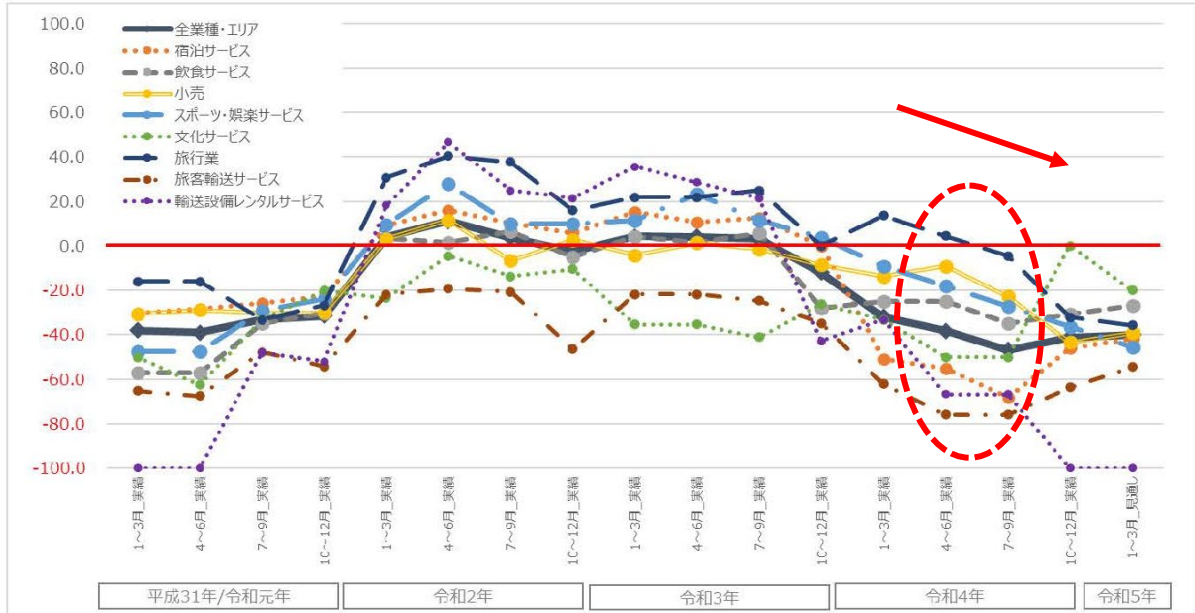


出典：令和5年3月沖縄県文化観光スポーツ部

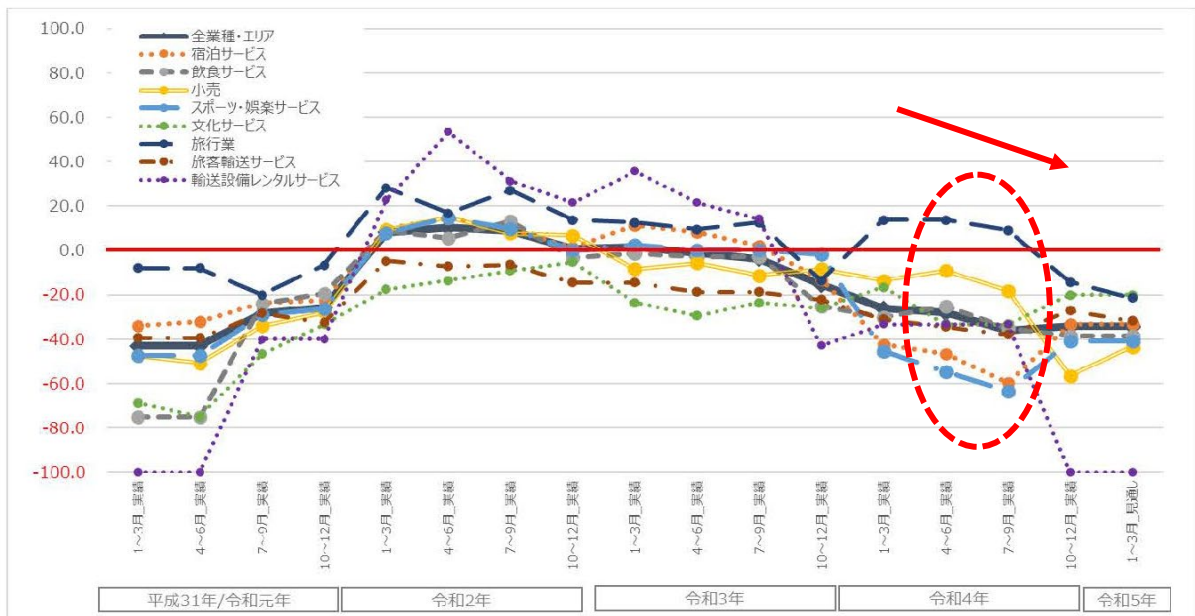
図:2-8

【正規・非正規雇用DIの業種別比較】

(業種別)従業員 DI ・正規



・非正規



出典：令和5年3月沖縄県文化観光スポーツ部

(4) 沖縄観光に関する県民意識の調査及び分析委託業務報告書

①調査目的

- 沖縄観光に関する県民意識やニーズ、及び行政に対する要望等を把握し、実行性の高い観光施策の企画・立案・評価及び沖縄観光ブランドの構築に資することを目的としている。

②調査結果より

沖縄観光の各施策の重要度(数値が高い順に5項目列举)

全体	・円滑な移動 ・交通事故等のトラブル防止対策 ・誰もが快適に過ごせる環境整備 ・風評被害対策 ・閑散期の誘客
北部 前回比較	・円滑な移動 ・環境と共生した持続可能な観光 ・交通事故等のトラブル防止対策 ・誰もが快適に過ごせる環境整備 ・沖縄文化の保全、継承、活用
北部 クロス	・海などの自然環境の保全 ・ゴミ処理 ・道路や公共トイレなど観光客も利用する公共施設の美化整備 ・観光 パトロール

※上表項目のほか優先順位が高いと考えられる項目(図(4)-5 赤線の項目参照)

「高度経営人材の育成」、「滞在日数の向上」、「データの収集・分析」、「クルーズ船寄港地の分散化」

観光産業のイメージ 図 2-9 参照

- 北部のみでなく、どの地域も「休みが取りにくい」が最多を占めるが、北部地域では、「残業が多い」「給与、待遇が悪そう」「労働環境が良くない」はいずれも上位であるとともに、他地域と比較しても一番高い結果となっている。

沖縄観光のあり方と観光行政に関する意見 図 2-10・2-11 参照

- どの地域でも交通関連への意見が最も多く、特に北部地域では、離島を除き、「交通の便・公共交通」への意見が多く、これらの拡充や改善が高い割合で求められている。
- 北部地域の特徴としては、「自然・環境保全、活用」が全体と比較しても最も高い割合となっており、観光資源としての認識とともに、行政への期待も大きいものととれる。また、次点の「観光客のマナー」への意識が高くなっていることは、交通面とともに、自然の保全、活用を考えるにあたり一定のルールの実現の必要性も認識されていると考えられる。
- ほかに、観光税を導入した場合の活用方法では、北部地域のみでなく、全地域において「海などの自然環境の保全」、「ゴミ処理」、「道路や公共トイレなど観光客も利用する公共施設の美化整備」の順で高くなっている。

沖縄観光の各施策の重要度と達成度 図 2-12・2-13 参照

- 各施策の重要率(図 横軸)に対する達成率(図 縦軸)の状況について、「重要度は高く、達成率が高い」項目は、「沖縄文化の保全・継承・活用」、「交通利便性の向上」、「環境と共生した持続可能な観光」、「沖縄らしい景観形成」となっており、今後も「維持・強化」される。

- 一方で「重要度は高いが達成率が低い」項目は、「円滑な移動」、「交通事故等のトラブル防止策」、「誰もが快適に過ごせる環境整備」、「風評被害対策」となっている。

今後の分析に向けて

- 本調査の結果から、北部地域では「自然資源」への保護、活用の意識が高く、今後需要も高くなると期待されるが、観光産業へのイメージが比較的よくないことから、人材確保への対策も必要と考えられる。
- これまでの事業検討経緯を勘案すると、北部地域における施策検討で優先順位が高いと考えられる項目として「高度経営人材の育成」「滞在日数の向上」「データの収集・分析」「クルーズ船寄港地の分散化」は課題であると共に、今後着目すべき項目と示唆される。(図 2-13 赤線の項目参照)
- 北部地域において生活の質や観光の質を高めるためには、より踏み込んだマーケティング戦略を立てる必要があると考えられる。そのためには、より実態に沿った分析をするため定性的・定量的な継続的データの蓄積が不可欠である。
- 北部地域は、中南部地域より、多様で豊かな自然が豊富であることを強みとして活かすためにも、詳細な分析が必要と考えられる。
- 観光が発展すると「生活も豊かになる」かについては、「どちらともいえない」という意識が離島を除く地域で最も高く、「とても思う」が最も低い状況である。今後の取り組みとして、『豊かな生活』を感じられる観光産業とは、県のビジョンが示す『海外に選ばれる』、『稼ぐ力』を高め、より収益を得ていくことであり、それが生活の質の向上、観光の質の向上につながる」といった意識の醸成も必要と考えられる。(図 2-14 参照)

図:2-9 観光産業のイメージ（地域別）【複数回答】

2022年度	（%）					
	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
休みが取りにくい	44.4	43.6	45.5	45.6	30.2	53.4
経営が不安定	29.9	33.9	33.6	33.7	28.8	32.9
残業が多い	41.5	29.9	30.0	29.1	16.4	32.0
体力的な負担が多い	32.1	28.2	28.7	27.4	34.3	30.7
給与・待遇が悪そう	32.6	25.8	31.7	27.3	20.5	29.0
離職者が多い	31.8	22.7	27.1	27.7	23.8	36.5
労働環境が良くない	32.9	22.4	25.6	25.8	18.3	28.4
仕事を通じて成長できそう	22.9	24.1	22.5	25.1	21.5	33.7
仕事内容が面白そう	13.9	21.4	19.1	23.4	10.1	20.2
社会に貢献している	10.3	19.1	21.1	19.0	10.6	11.8
福利厚生が不十分	23.7	12.1	17.3	11.1	16.7	21.0
業界に将来性がある	7.5	14.7	11.8	11.0	10.5	15.3
業界に対する社会的評価が低い	12.4	9.4	12.5	9.6	10.9	11.9
規模が大きい会社が多い	12.5	11.9	7.8	6.9	8.6	6.4
優秀な人材が少ない	7.8	7.5	9.5	5.4	13.7	15.2
知名度が高い会社が多い	7.8	8.5	6.8	5.2	13.6	7.9
優秀な人材が多い	12.0	6.7	5.5	9.6	1.2	5.3
会社の規模が小さい	4.9	5.5	12.0	6.5	4.9	9.7
給与・待遇がいい	6.8	7.6	7.6	3.5	4.1	5.5
会社の知名度が低そう	1.3	3.9	8.2	3.3	2.0	4.3
福利厚生が充実している						2.7
業界に将来性がない						3.3
業界に対する社会的評価が高い						3.2
経営が安定していそう						2.4
労働環境がいい						2.5
仕事を通じての成長がなさそう	0.4	2.8	4.6	1.2	1.9	2.8
体力的な負担が少ない	3.4	2.7	3.1	1.4	0.5	2.3
仕事内容が面白なさそう	8.0	2.1	2.2	0.9	2.0	1.4
休みがキチンと取れる	4.0	2.1	2.4	0.9	0.5	3.6
社会に貢献できなさそう	1.0	2.2	2.3	0.8	5.5	0.7
離職者が少ない	3.6	2.2	0.9	0.9	2.8	2.1
残業が少ない	2.9	1.4	2.3	0.7	0.5	3.4
その他	0.0	1.0	1.0	0.2	3.9	0.0
わからない／あてはまるものがない	17.2	9.5	11.7	13.5	20.3	10.3

観光産業のイメージ
残業が多い、給与・待遇悪、労働環境が良くない

図:2-10 来月の沖縄観光のあり方や観光行政に関する意見【自由回答を分類】

	（%）						
	全体	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
交通	19.7	18.8	18.5	20.9	23.7	24.0	10.2
交通の便・公共交通	11.8	13.1	11.7	10.2	13.0	20.7	6.2
渋滞・混雑	7.5	8.1	6.2	8.4	10.5	10.2	2.6
レンタカー	4.8	0.0	3.3	6.9	9.5	3.3	4.0
モルール	4.1	1.2	2.3	6.5	6.7	10.2	0.0
バス	3.9	0.0	3.3	3.8	6.2	10.2	4.8
ルール・マナー、事故対策	3.0	0.0	2.9	2.9	5.9	1.2	1.4
自然・環境保全、活用	13.1	27.6	10.7	13.3	10.6	16.9	12.4
観光開発、施設・インフラ整備	12.7	3.9	12.2	13.4	13.4	16.7	25.4
観光発展・コロナ後の観光回復・復興	6.2	8.5	5.5	4.8	9.9	3.6	6.3
観光客のマナー	6.2	9.4	7.1	4.0	5.7	8.0	2.7
環境美化・ゴミ処理	5.8	4.6	6.9	4.7	4.9	4.1	7.6
PR情報発信	5.3	4.7	5.8	3.1	6.0	7.0	8.9
観光への依存・観光以外の産業振興	4.0	0.0	4.1	3.3	6.4	5.9	4.0
開発の抑制、観光客の抑制	3.9	7.3	2.6	2.9	7.1	6.3	2.7
文化の継承・保全、活用	3.7	0.9	2.9	5.9	5.1	4.2	0.0
観光産業の待遇改善	3.6	4.5	4.4	2.6	3.4	0.0	1.4
人材育成・県民教育（語学力向上含む）	3.0	0.0	2.2	2.7	2.0	2.8	4.0
観光により経済発展・県民所得向上							0.0
コンテンツ、メニュー、商品開発							0.0
良好な景観							4.0
県内企業を優先すべき・県外企業が多い							1.4
治安、安心・安全							7.4
観光客の分散、特定層の誘客							3.2
県民生活とのバランス、配慮							7.9
おもてなし							3.5
オーバーツーリズム	1.8	0.0	1.6	0.8	2.7	2.8	9.2
案内板・案内	1.8	0.0	2.3	2.3	1.0	0.0	1.3
県民が楽しめる観光	1.6	0.0	0.8	1.9	5.5	0.0	0.0
イベント	1.6	2.2	2.2	1.5	0.0	0.0	1.3
受け入れ側の意識、マナー、行動	1.5	2.5	0.5	1.6	1.7	4.1	5.8
事業者支援	1.4	0.0	0.6	0.8	0.9	0.0	18.2
コロナ禍における観光	1.3	0.0	1.7	0.2	0.5	10.2	0.0
スポーツ	1.2	0.0	2.0	1.1	0.6	0.0	0.0
持続可能な観光	1.1	2.2	1.1	1.1	1.0	1.2	0.0
その他	31.2	22.9	32.6	33.8	25.4	36.6	35.1

北部地域は
「交通の便・公共交通」「自然・環境保全、活用」「観光客のマナー」について意識が高い

出典：令和5年3月沖縄県文化観光スポーツ部

図:2-11 観光税を導入した場合の活用方法（地域別）【複数回答】

	(%)					
	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
海などの自然環境の保全	66.2	69.0	69.5	70.3	64.4	79.5
ゴミ処理	52.5	56.4	55.0	60.0	67.6	79.0
道路や公共トイレなど観光客も利用する公共施設の美化整備	52.4	55.4	57.0	56.4	60.3	69.2
観光パトロール	37.8	39.9	38.8	33.6	47.5	51.4
観光施設等のバリアフリー化	27.0	32.2	29.9	26.8	41.9	31.9
ホスピタリティの向上・人材育成	21.8	25.4	27.7	27.3	30.1	34.6
案内表示や情報発信等における多言語対応の強化	19.9	25.0	27.6	20.7	26.8	29.4
観光客が手軽に情報を入手できる情報通信の環境整備	16.3	24.5	25.1	22.9	14.5	27.1
観光バス等の駐車場の整備	15.5	23.9	25.6	20.3	26.1	29.4
宿泊・観光施設の整備	12.9	21.2	21.9	19.8	10.6	26.2
観光案内機能の充実	9.6	19.5	17.7	18.6	17.5	26.0
観光メニューづくり	11.6	16.3	17.4	13.0	8.0	19.1
誘客プロモーション	7.7	14.3	15.2	9.7	4.6	17.1
その他	2.8	1.3	2.0	1.0	4.4	2.4
特になし	10.8	8.7	11.2	10.8	10.4	4.4
無回答	0.0	0.5	0.2	0.0	0.7	0.0

図:2-12 沖縄観光の各施策に対する重要度(地域別)

	北部	中部	那覇市	南部	宮古	八重山
1位	・円滑な移動 (第6位)	・円滑な移動 (第2位)	・円滑な移動 (第2位)	・円滑な移動 (第5位)	・環境と共生 した持続可 能な観光(第 1位)	・環境と共生 した持続可 能な観光(第 1位)
2位	・環境と共生 した持続可 能な観光(第 1位)	・環境と共生 した持続可 能な観光(第 1位)	・環境と共生 した持続可 能な観光(第 1位)	・環境と共生 した持続可 能な観光(第 1位)	・交通事故等 のトラブル 防止対策(第 5位)	・沖縄らしい 景観形成(第 2位)
3位	・交通事故等 のトラブル 防止対策(第 4位)	・交通事故等 のトラブル 防止対策(第 4位)	・沖縄文化の 保全・継承・ 活用(第3 位)	・交通利便性 の向上(第6 位)	・沖縄文化の 保全・継承・ 活用(第3 位)	・沖縄文化の 保全・継承・ 活用(第3 位)
4位	・誰もが快適 に過ごせる 環境整備(第 7位)	・誰もが快適 に過ごせる 環境整備(第 5位)	・交通利便性 の向上(第7 位)	・交通事故等 のトラブル 防止対策(第 3位)	・円滑な移動 (第7位)	・交通事故等 のトラブル 防止対策(第 9位)
5位	・沖縄文化の 保全・継承・ 活用(第2 位)	・沖縄らしい 景観形成(第 6位)	・沖縄らしい 景観形成(第 5位)	・沖縄文化の 保全・継承・ 活用(第2 位)	・沖縄らしい 景観形成(第 4位)	・円滑な移動 (第13位)

出典：令和5年3月沖縄県文化観光スポーツ部

※括弧内は前回調査の順位

図:2-13 沖縄観光の各施策の重要度と達成度の関係性

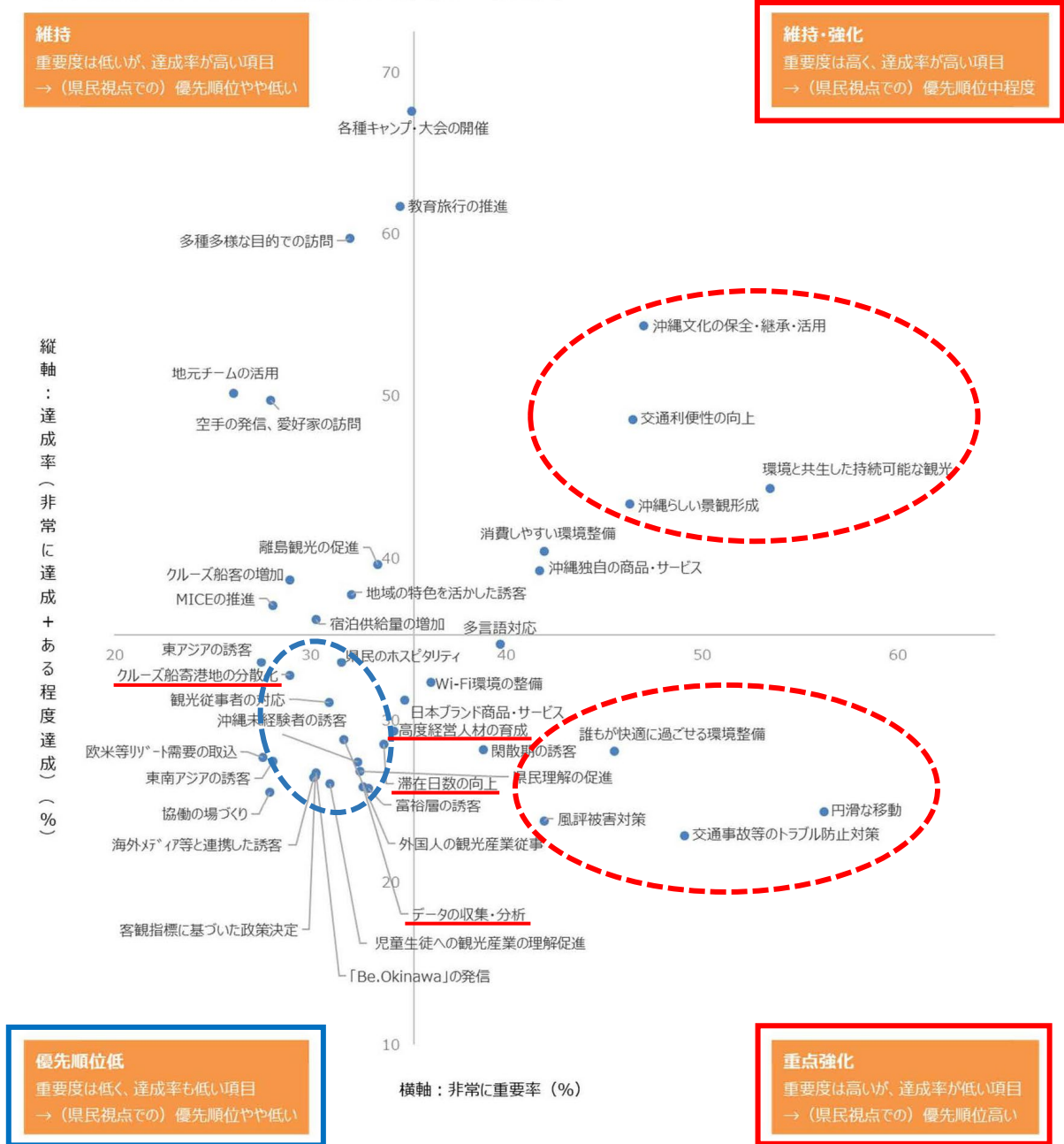


図:2-14 観光が発展するとあなたの生活も豊かになると思うか(地域別)



※1: 2021年度調査より調査票において「観光が発展することで生じる様々な効果」を例示しているため、2019年調査までの結果と単純に比較することはできない。

出典：令和5年3月沖縄県文化観光スポーツ部

(5) RESASによる北部地域の実態調査

①市町村別目的地検索

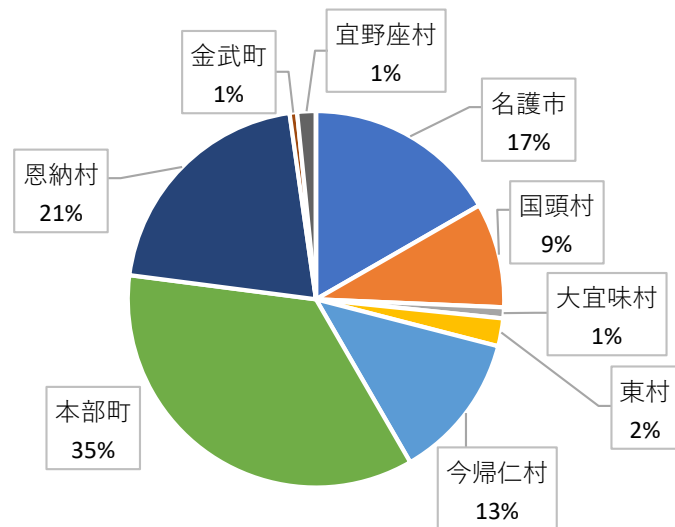
- RESAS(※)は市町村ごとに目的地検索結果を休日・平日別、自動車・公共交通機関別に掲載している。
- 令和4年(2022年)度の休日の結果から、周遊の分布について自動車と公共交通機関を合算し、下表に整理した。
- 交通手段の「自動車+公共交通機関」を合算すると、目的地検索回数が多いのは本部町、恩納村、名護市の順となった。
- 最も検索回数が多い本部町の内訳として、沖縄美ら海水族館が多く占めていた。
- 多くの観光客の目的地とされている沖縄美ら海水族館は、現在も北部地域の観光を牽引している存在である。
- 一方、北部地域の3離島は検索結果が反映されていないため、北部12市町村全体の周遊を把握するデータとしては十分ではない。

※RESAS:産業構造や人口動態、人の流れ等のビッグデータをマップやグラフでわかりやすく表示できるシステム

表:2-24 自動車と公共交通機関の合算検索結果

市町村	検索回数	比率
名護市	2,383	17%
国頭村	1,283	9%
大宜味村	135	1%
東村	341	2%
今帰仁村	1,804	13%
本部町	5,054	35%
恩納村	2,955	21%
宜野座村	229	2%
金武町	92	1%
伊江村	0	0%
伊平屋村	0	0%
伊是名村	0	0%
合計	14,276	100%

図:2-15 自動車と公共交通機関の合算 目的地検索結果



出典:RESAS 株式会社ナビタイムジャパン「経路検索条件データ」

※伊江村・伊平屋村・伊是名村は自動車、公共交通機関データなし

②居住都道府県別の延べ宿泊者数

- RESAS では、市町村ごとの延べ宿泊者数を掲載している。
- 2022 年度の北部地域における延べ宿泊者数は 7,270,268 人となり、恩納村の 4,904,332 人が全体の 67.5%を占め、次いで名護市 1,327,640 人(18.3%)、本部町 902,562 人(全体の 12.4%)となっている。
- これら 3 市町村で全体の約 98%を占めている。
- また、北部の 12 市町村への宿泊者の居住地としては、東京都が最も多く、次いで大阪府、神奈川県、愛知県となっている。
- これらの情報は実態把握データとして有効だが、北部 3 離島のデータがなく、補完する他のデータが必要である。

表:2-25 市町村別延べ宿泊者数と比率

市町村	延べ宿泊者数	比率
名護市	1,327,640	18.3%
国頭村	98,535	1.4%
大宜味村	0	0.0%
東村	597	0.0%
今帰仁村	19,608	0.3%
本部町	902,562	12.4%
恩納村	4,904,332	67.5%
宜野座村	11,973	0.2%
金武町	5,021	0.1%
伊江村	0	0%
伊平屋村	0	0%
伊是名村	0	0%
合計	7,270,268	100%

図:2-16 市町村別延べ宿泊者比率

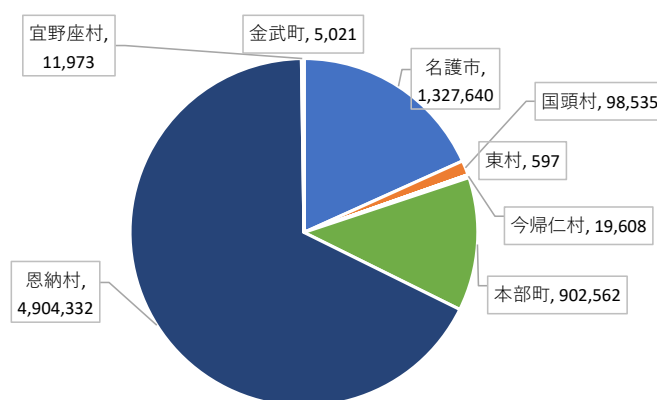
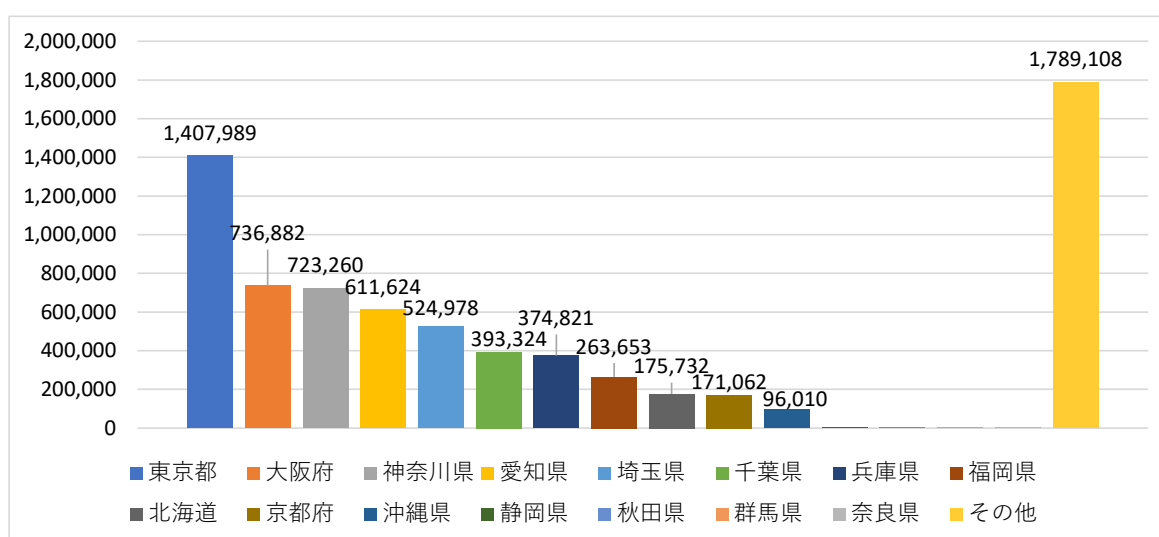


図:2-17 都道府県別宿泊者数



出典:RESAS 観光予報プラットフォーム推進協議会「観光予報プラットフォーム」

※伊江村・伊平屋村・伊是名村は該当データなし

(6) 観光関連データを取り巻く概況

① 調査概要

- ・ これまでの各調査から、北部地域の各市町村における観光の主な課題として、日帰り観光客が多く滞在時間が短いこと、北部地域を統括した観光情報の提供ができるデータベースがないこと、脆弱な交通アクセスがあげられる。各市町村ともこれら課題に対応するため、地域内での消費増を見込んだ事業方針や施策が多くあげられている。
- ・ 一方でこれらの対応には、訪問者の行動やニーズを把握し、より実態に沿った戦略などの検討や提案が必要だが、各市町村ともにデータ収集手法が異なることをはじめ、特にマーケティングやブランディングなどを含む戦略策定に向けて根拠となる、「行動・宿泊・消費」のデータが揃っていない状態が続いている。
- ・ 北部地域における観光関連データは、県の観光統計実態調査や観光産業実態調査、県民意識調査などを基にしており、北部地域は12市町村別でなく「エリア区分」などとした大まかな括りでの整理となっている。
- ・ 北部地域各市町村は、中南部地域からの距離が長いなど交通面が共通課題であることを前提にしながら、県が実施するような実態調査は各市町村に委ねられている。
- ・ 地域への消費効果が見える形で把握できれば、関係事業者のみでなく、地域住民の地元への愛着や観光に対する満足度も高まり、より広域的で効果的な施策展開につながるができる。
- ・ 北部地域における観光データの取得と活用は、今後の北部地域全体としての観光マーケティングを効率よく検討していくために必要不可欠である。
- ・ 前述のとおり、北部地域の観光関連データによる実態把握は、各市町村とも収集手法が異なり、元データは統一されたソースによるものではないため、現状把握のため、今後北部地域全体として活用可能と考えられる既存データを整理する。

【既存データ元】

- ・ 沖縄県観光統計実態調査のデータ取得・活用
- ・ 民間観光メディア、エージェントのデータ取得・活用の可否
- ・ OCVB「おでかけウォッチャー(おきなわ観光対策カルテ)」のデータ取得・活用
- ・ ウェブサイト及びSNSのデータ分析

②調査結果

ア. 各機関のデータの活用可否

- 観光データは、航空会社の利用者数、ホテル滞在者数、アンケートによる入込客数、平均滞在日数、ホテル稼働率、観光消費額が主である。これらのデータは、OCVB や沖縄県のほか、民間観光メディア発行の「観光とけいざい」(沖縄観光速報社)、沖縄振興開発金融公庫が発信する「県内主要ホテルの稼働状況」などがあるが、データの共有などに関しては、地域全体の効果が見えるような環境構築をすることで、互いにメリットが明確であることを示すことと、これに伴う関係性の構築が必要となる。
- データ取得可能性について、各関係機関などへのヒアリングから得られた回答は下表のとおりである。

【OTA】

会社・団体名	データ提供	ソース	一次データ提供
じゃらん(リクルート)	無料・有料情報あり	自社関連グループ	NG
楽天トラベル	NG	NG	NG
OTS	NG	NG	NG
Agoda	NG	NG	NG

※OTA オンライントラベルエージェント

【公的機関】

会社・団体名	データ提供	ソース	一次データ提供
沖縄振興開発金融公庫	公開レポート	同時調査	NG
OCVB	入域客見通し公開	独自調査	NG
OCVB	おきなわ観光地域カルテ(ウェブ)	おでかけウオッチャー	NG

【観光メディア】

- 沖縄観光速報社が、航空会社の旅客実績及び沖縄県内主要ホテルの稼働率を継続的に発表している。
- 二次利用に関しては、許可申請のうえ活用可能である。

図：2-18 観光とけいざい ウェブサイト画

沖縄観光速報社
創刊1973年12月

HOME バックナンバー ライブラリー PDF

Home Page Since 1995 [Last modified on TUE . JAN . . 09, 2024 -Japanese only-]

沖縄観光ニュースは、観光産業のニュース、研究、レポートなど専門紙「観光とけいざい」(年22回発行)から選んだ記事を提供しています。

年末年始(12月28～1月3日)のFSC沖縄線実績は0.5%減

	旅客数	前年比	前年人	提供席数	前年比	前年席	利用率	前年
JAL	147,045	103.0	142,762	179,839	96.1	187,137	81.8	76.3
ANA	167,005	95.8	174,327	205,166	93.5	219,429	95.8	81.4
SKY	38,393	103.2	37,196	44,073	98.8	44,604	87.1	83.4
合計	352,443	99.5	354,285	429,078	95.1	451,170	82.1	78.5

	旅客数	前年比	前年人	提供席数	前年比	前年席	利用率	前年
JALGroup	717,113	96.5	742,759	889,204	92.3	963,734	80.6	77.1
ANAGroup	882,277	97.9	900,762	1,125,821	92.2	1,220,715	78.4	73.8
SKY	160,341	98.2	163,339	183,195	95.7	191,514	87.5	85.3
合計	1,759,731	97.4	1,806,860	2,198,220	92.5	2,375,963	80.1	76.0

	旅客数	前年比	前年人	提供席数	前年比	前年席	利用率	前年
JALGroup	126,664	115.4	109,781	161,841	114.5	141,298	78.3	77.7
ANAGroup	148,370	135.9	109,138	187,027	136.3	137,222	79.3	79.5
合計	275,034	125.6	218,919	348,868	125.3	278,520	78.8	78.6

ソース：各社の本社・支社の公表値(1月9日付)。前年の数値は今年/前年比で算出したものがある。
沖縄線は離島線を含む(SKYの那覇-宮古は含まない)。沖縄観光速報社集計(1月9日)

表:2-26 おでかけウォッチャーと沖縄観光地域カルテ比較表

サービス名	おでかけウォッチャー (本体)	おきなわ観光地域カルテ (沖縄版おでかけウォッチャーの意)
特徴	ブログウォッチャー社が提供する観光人流モニタリングサービス	おでかけウォッチャーを利用して、県内の各市町村の人流データを公開している。
利用者	市町村単位で契約し、利用可(有料)	OCVB のウェブサイトより利用可(無料)
その他	1週間前のデータが利用可能 利用者が自由にデータを操作し、細かな設定が可能	2か月後の公開 PDF ファイル形式で A3 サイズ 5 枚(定型)

③おでかけウォッチャー（おきなわ観光地域カルテ）について

- おでかけウォッチャーとは、デジタル観光人流モニタリングサービスで、沖縄県における観光客(県外のみ)の人流データを分析し、市町村別×月別にわかりやすく可視化した観光マーケティングレポートであり、OCVB は毎月市町村毎のデータを取りまとめて公開している。2023 年度から始まった取り組みで、プロトタイプ版の位置づけであり、順次使い勝手の向上を目指している。
- 各市町村または観光協会、DMO 等は直接サービス提供会社と契約することで、おでかけウォッチャーの利用が可能である。

図:2-19 おきなわ観光地域カルテ



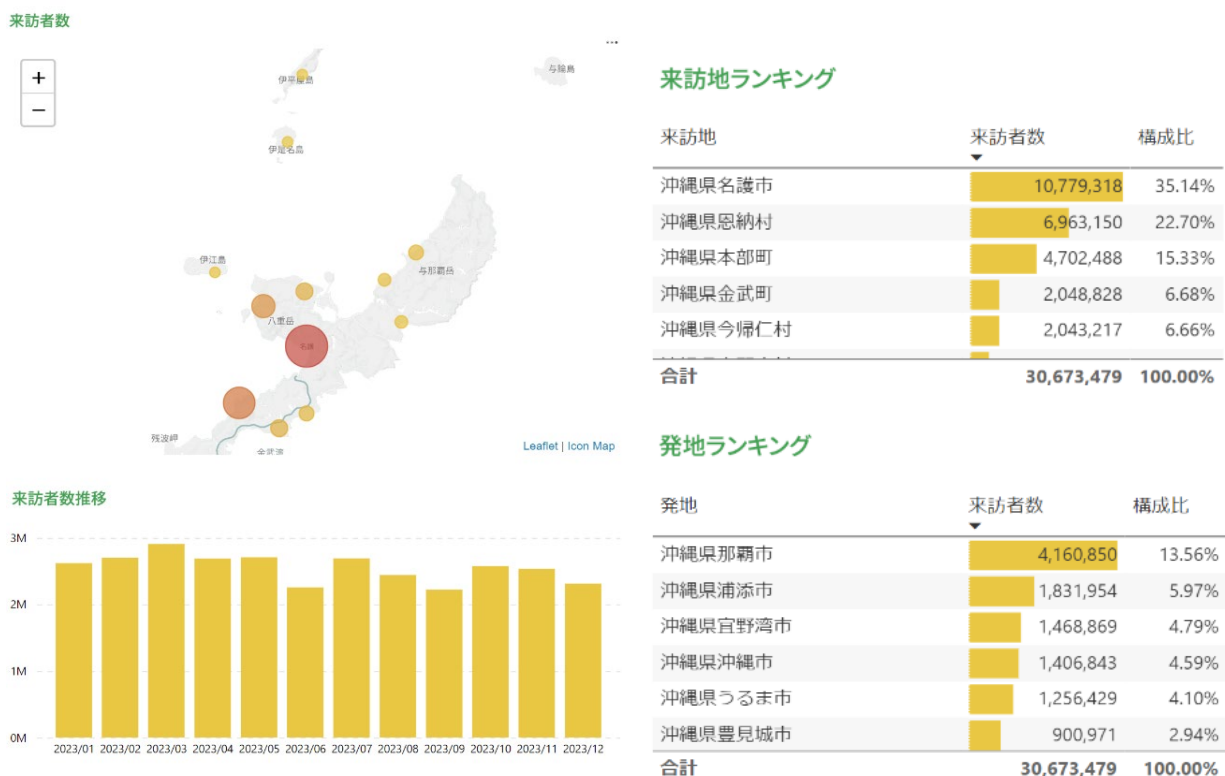
出典:おきなわ観光地域カルテ

ア. おでかけウォッチャーで可能な分析

◆来訪地分析

- 特定の観光スポットを訪れた人々を分析し、特定の観光スポットや地域の来訪者数を把握できる。
- 例えば、令和5年(2023年)の北部12市町村を訪れた観光客(中南部からの行楽客も含む)の入域者の数を数値と図解で示したものとなる。(次図参照)
- 利用者は、対象市町村の選択、比較する期間を変更できる。また、県外客のみを対象にした数値の抽出が可能で、属性を加味し、年代別や性別での分析が可能である。
- 留意点は、選択市町村を訪れた「延べ人数」となっているため、複数の市町村を周遊している場合は、それぞれの市町村でカウントされている。
- 下の図は令和5年(2023年)1月1日から12月31日までの北部12市町村を訪問した観光客(県内客を含む)の市町村ごとの延べ人数である。設定変数を変えることによって、期間、市町村ごとまたはスポットごとに人数を出すことができる。これに年代別や性別などの属性を加えることでクロス集計が可能である。

図:2-20 来訪地分析(令和5年北部地域市町村別)

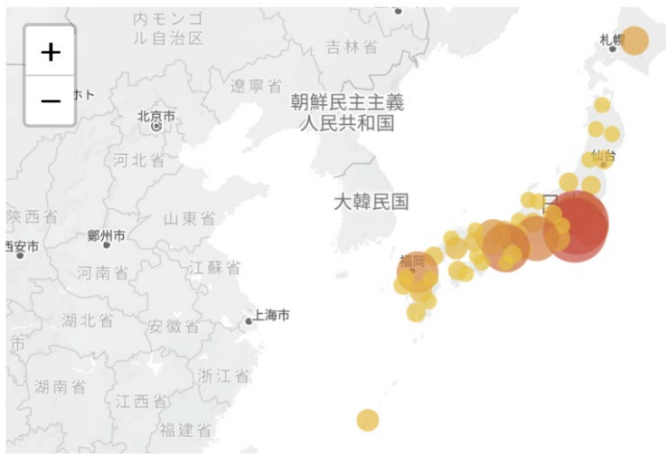


◆発地分析

- ・ 来訪者がどの地域から来ているか分析できる。ターゲット地域の特定が可能である。
- ・ 図は、令和5年(2023年)北部地域を訪問した観光客がどこから訪問してきたかの分布を表している。日別推移も色分けで図示されているため、季節変動なども把握する事ができる。また、これに属性(性別や年代)を加味し、クロス集計も可能である。
- ・ 下図は、令和5年(2023年)1年間で、北部12市町村を訪れた観光客の出発地ごとの延べ人数となる。この機能でも、期間、発地、来訪地を設定することが可能である。期間は1日単位から数年単位で、また発地は市町村単位や都道府県単位で、来訪地は市町村単位、スポット単位で設定可能である。

図:2-21 発地分析(令和5年北部地域訪問者の都道府県別)

発地別来訪者数



出典:おでかけウォッチャー

発地ランキング

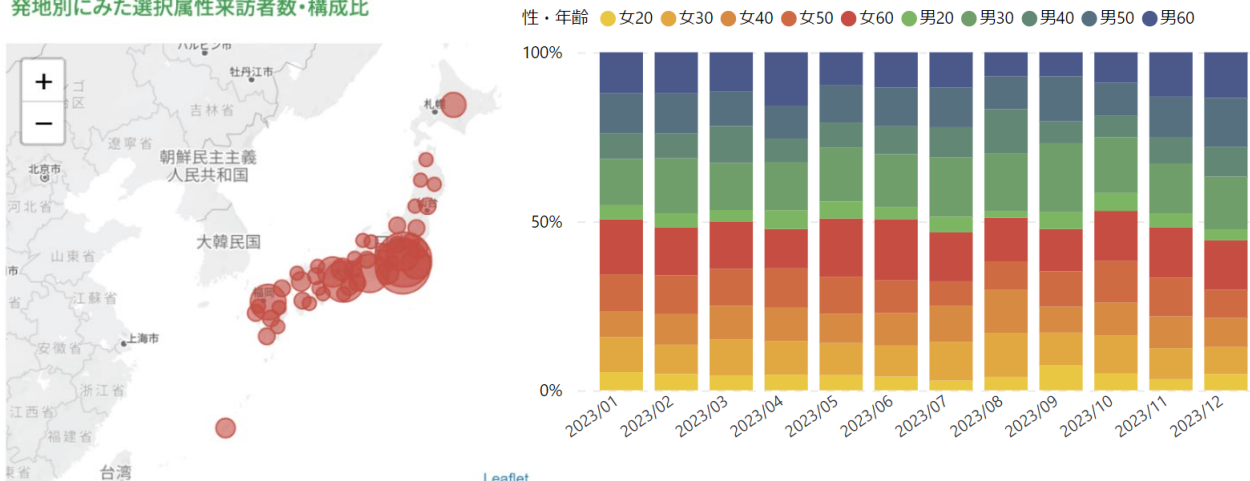
発地	来訪者数	シェア
東京都	1,751,380	12.62%
神奈川県	1,695,127	12.22%
大阪府	1,231,040	8.87%
愛知県	1,022,417	7.37%
福岡県	912,428	6.57%
埼玉県	874,914	6.30%
千葉県	743,398	5.36%
兵庫県	694,865	5.01%
北海道	529,127	3.81%
静岡県	344,439	2.48%
合計	13,877,341	100.00%

◆属性分析

- ・ 来訪者の性別や年齢層などの属性データを分析できる。ターゲット層の特定やマーケティング施策のカスタマイズに利用可能である。
- ・ 図は、令和5年(2023年)1年間の属性別と県外のお客様で、居住が多い地域を示すグラフである。

図:2-22 属性分析(令和5年北部地域訪問者の属性別)

発地別にみた選択属性来訪者数・構成比



出典:おでかけウォッチャー

◆前後別周遊分析

- ・ 観光スポットを訪れる前後の動きを分析し、観光客がどのようなルートで移動しているか、どのスポットを組み合わせで訪れているかを把握できる。観光ルートの企画や連携施策の立案に利用可能である。
- ・ この機能は、市町村単位でなくスポット単位での表示となる。特定のスポットを選択し、その前後の移動先を把握できる。
- ・ 図は、令和5年(2023年)の1年間で今帰仁村古宇利のハートロックを訪問した観光客がその前後でどこに移動したかを示すものである。
- ・ これ以外にも、旅程分析、時間分析など細かい設定により、より詳細なピンポイントで場所や期間を設定し、きめ細かなデータを取得することが可能である。
- ・ 下の図は、今帰仁村古宇利にある、観光客に人気の「ハートロック」を訪問した観光客が、訪問前後にどこにいたかを示す図となる。

図:2-23 前後別周遊分析(令和5年今帰仁村古宇利のハートロック訪問者の前後周遊地)

前の来訪地別周遊者数・シェア・推移



後の来訪地別周遊者数・シェア・推移



前の来訪市区町村	前の来訪地	周遊者数	シェア	次の来訪市区町村	次の来訪地	周遊者数	シェア
沖縄県今帰仁村	字古宇利(今帰仁村)	28,428	43.87%	沖縄県今帰仁村	字古宇利(今帰仁村)	28,549	43.84%
沖縄県今帰仁村	古宇利大橋・古宇利ビーチ周辺	7,725	11.92%	沖縄県今帰仁村	古宇利大橋・古宇利ビーチ周辺	5,110	7.85%
沖縄県名護市	字清井出(名護市)	4,103	6.33%	沖縄県今帰仁村	古宇利オーシャンタワー	3,832	5.88%
沖縄県今帰仁村	古宇利オーシャンタワー	3,763	5.81%	沖縄県本部町	海洋博公園・オーシャニックソ...	1,588	2.44%
沖縄県本部町	海洋博公園・オーシャニックソ...	2,257	3.48%	沖縄県名護市	道の駅「許田」	1,508	2.32%
沖縄県今帰仁村	今帰仁城跡(なまじんじょうあ...	1,374	2.12%	沖縄県今帰仁村	字天底(今帰仁村)	1,464	2.25%
合計		64,795	100.00%	合計		65,123	100.00%

出典:おでかけウォッチャー

イ. おでかけウォッチャーの活用にあたっての現状と課題

◆現状

- ・ おでかけウォッチャーの活用は、人流を把握する上で有効である。サンプル数が多く、人口補正されているため、市町村単位でその日に訪問、滞在した人数を把握できる。
- ・ ただし、ある場所を訪問し、その場所から別の市町村を訪問した場合は、各市町村で訪問者としてカウントされるため、数が重複する。市町村単位での訪問者の把握では有効だが、各地の集計が北部地域の入域客の総数とはならない。

- また、複数日滞在する場合も、同様で、2日間滞在すれば、各日で1人とカウントされる。
- これまでは、市町村ごとに入域者数数の計測方法が異なっているため、観光客の動向や行動傾向を把握することが困難であった。このため、おでかけウォッチャーを北部広域的に利用することで、比較基盤を共通構築できる。
- おでかけウォッチャーを継続利用することで、経年比較が可能となり、データを活用した観光施策の展開に活かすことができる。市町村単位で活用する場合も有効である。
- 詳細設定など、多様な機能による使い勝手の難はあるが、より詳細なデータを取得が可能であるため、効率的なサービス設計などにも活かすことが可能である。

◆課題

離島

- 離島はサンプル数が少なく、設定期間を短くすると誤差が大きくなる傾向がある。
- 実際、OCVBの「おきなわ観光地域カルテ」では、伊是名村と伊平屋村の月ごとのカルテが作成されていない。これを補うためには、離島に特化した実態調査や、離島船舶利用者の動向などを把握するなどしてデータの補正や補足の必要がある。

外国人データ

- 当該サービスは日本人観光客のデータを活用しているため、外国人の動向を含んでいない。
- システムのアップデートを要望すると同時に、定点モニタリングなどを実施し、外国人の動向を把握する仕組みも検討していく必要がある。

④ウェブサイト及びSNSの分析

- 観光情報は、民間商用サイトや個別企業によって発信されており、ウェブサイト、メール、SNSなどをもとに、日々進化している。
- 行政及び観光協会による観光情報は、正確さや公平さを重視した情報となっていることが特徴の一つである。新鮮な情報は地元だからこそ発信できる部分であり、イベントの告知をはじめ、緊急時や災害時の連絡や情報収集など、日ごろから情報を収集・発信する体制が求められる。
- 各市町村ウェブサイトやSNSでは、セキュリティやプライバシーの観点から、サイトの分析ツールなどによる情報開示が困難である。そこで外部ツールを活用し、各観光協会のウェブのアクセス状況などをモニタリングした。
- 「SE Ranking」ツールで、目的のウェブサイトの検索数やリンク先などをモニタリングし、各市町村の観光協会サイトの使われ方などを概観することで、より良い情報発信内容の検討が可能である。

- 下図は各市町村の観光協会のウェブサイトにおける、キーワード及びリンク先数等を表している図である。キーワードに関しては、その地名、観光、体験、飲食、観光スポットを設定し、トラフィック数などを予測・分析が可能である

図:2-24 北部地域内の各観光協会ウェブサイトの検索比較表

グループ	TOP 5 / 10 / 30	キーワード	平均順位	DT	参照ドメイン	被リンク
市町村 12	28 / 2 / 6	80	54		14.1K	901.6K
観光協会 12	68 / 3 / 7	96	21 ▲1		3.1K	162.6K
名護市観光協会	6 / 1 / 0	8	15	48	348	1.6K
金武町観光協会	8 / 0 / 0	8	2 ▲1	42	315	1.1K
恩納村観光協会	6 / 0 / 0	7	11 ▲1	48	114	1.8K
宜野座村観光協会	5 / 1 / 0	9	19	44	297	2.7K
今帰仁村観光協会	4 / 0 / 1	6	21	47	387	1.6K
本部町観光協会	10 / 0 / 2	12	4 ▼1	54	1.1K	133.2K
国頭村観光協会	9 / 0 / 2	12	13	47	108	18.1K
大宜味村観光協会	2 / 0 / 0	6	57 ▲4	29	31	171
東村観光協会	2 / 1 / 2	7	24 ▲1	19	13	15
伊是名島観光協会	9 / 0 / 0	9	2	37	216	675
伊平屋島観光協会	7 / 0 / 0	7	1 ▲1	31	84	1.6K
伊江島観光協会	0 / 0 / 0	5	88 ▲1	0	2	29

出典:SE Ranking 表示画面イメージ

4. 観光意識アンケート調査

(1) 調査概要

- 本アンケート調査は、北部地域の現状把握のため、北部地域に訪れる観光客や北部地域の事業者、住民を対象に、今後の基礎資料として実施した。
- 観光に関する満足度や北部地域の魅力、観光が地域の生活に及ぼす影響などを設問項目としており、得られる回答をもとに課題抽出を行う。

◆調査対象、内容、方法

対象者	回答者数	アンケート実施方法	目的/質問項目
国内外観光客	国内客:426人 国外客:22人	実施日: 2/17、2/18、3/3、3/4 実施場所: 道の駅(許田、ぎのざ、ゆいゆい国頭)、おんなの駅なかゆくい市場 実施方法: 国内:WEBアンケート+道の駅対面アンケート 海外:道の駅対面アンケート	目的: 地域の魅力への満足度や今後の改善点を抽出 設問項目: 北部の滞在期間・移動手段、旅行中の満足度、北部地域の魅力、再来訪の有無、やんばるの範囲)
事業者	事業者:33	実施日: 2/15~3/8 実施方法: 各観光協会経由もしくは、SNS経由で依頼し、WEBアンケートを実施	目的: 地域の強みや課題、地域資源の効果的な活用や、持続可能な観光展開に向けた内容を抽出 設問項目: コロナ後の経営的な課題、従業員の確保、現状についての満足度、所在地域の観光の魅力、地域活性化に必要な取り組み、観光DXについて
住民	住民:430人	実施日: 2/15~3/4 実施方法: 市町村公式LINEと新聞折込にて周知し、WEBアンケート実施	目的: 地域の観光が日常生活に与える影響への評価から、地域の発展に対する意見や期待について抽出 設問項目: 北部地域の観光の現状、暮らしの満足度、北部観光課題の重要度と達成度、観光が与える生活の影響、観光の発展と生活の豊かさ、必要な持続可能な取り組み、やんばるの範囲

(2) 調査結果

①観光客アンケート結果

ア. 国内旅行者（426人）

◆属性

- ・ 回答者は男性が53.0%となっており、女性より若干多い結果となった。
- ・ 回答者の年代は、50代が25.3%と最も多く、続いて20代(22.9%)、40代(16.1%)、60代(15.1%)と続いた。
- ・ 回答者の居住地は東京が(15%)と最も多く、次いで沖縄(14%)、神奈川(8%)、大阪(8%)、愛知(6%)、福岡(5%)と大都市圏が続いた。

図:2-45 観光客の性別(有効回答数=421)

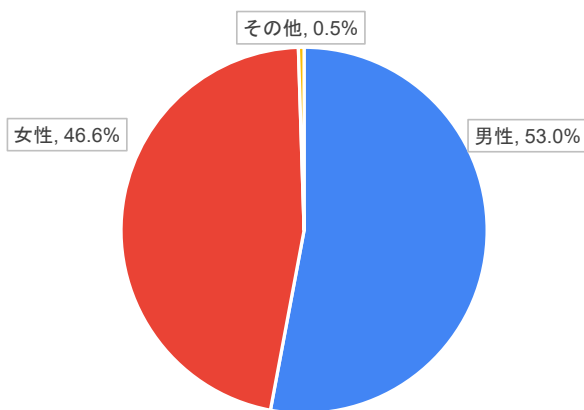


図:2-26 観光客の年代(有効回答数=426)

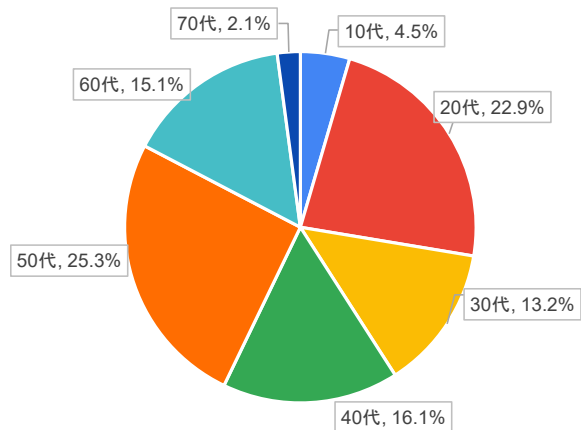
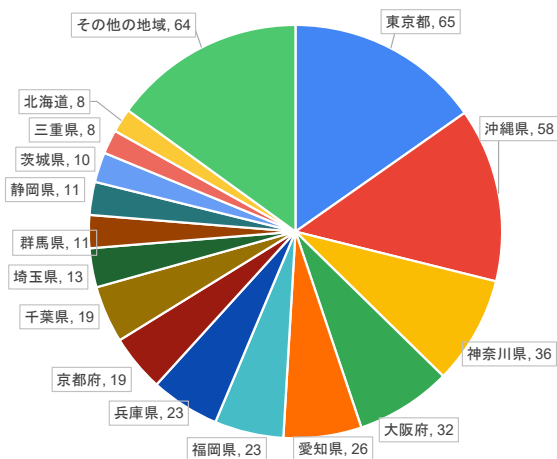


図:2-27 観光客の居住地(有効回答数=426)



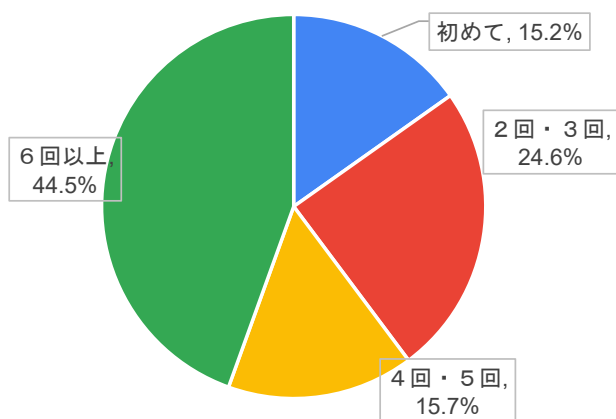
都道府県	回答数	比率
東京都	65	15.3%
沖縄県	58	13.6%
神奈川県	36	8.5%
大阪府	32	7.5%
愛知県	26	6.1%
福岡県	23	5.4%
兵庫県	23	5.4%
京都府	19	4.5%
千葉県	19	4.5%
埼玉県	13	3.1%
群馬県	11	2.6%
静岡県	11	2.6%
茨城県	10	2.3%
三重県	8	1.9%
北海道	8	1.9%
その他	64	15.0%
合計	426	100%

※グラフの数値: 小数点第二位で四捨五入しているため、比率の合計は必ずしも100%にはならない。

◆沖縄訪問・滞在

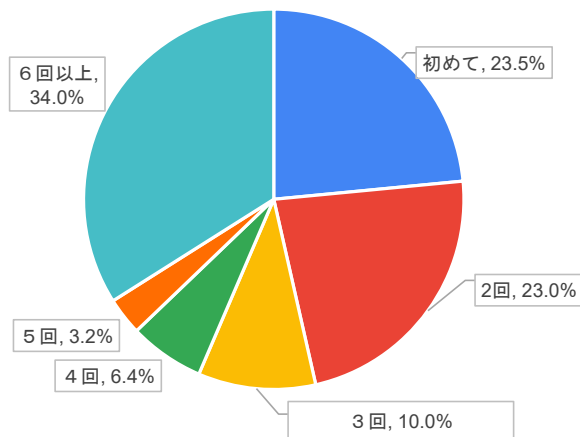
- ・ 沖縄の訪問回数調査では、6回以上のリピーターが44.5%と最も多く、次に2回、3回のリピーターが24.6%続き、初めては15.2%と最も少なかった。
- ・ 北部地域来訪回数調査では、「6回以上」のリピーター客が34.0%と最も多く、「初めて」が23.5%、「2回」が23.0%と続いた。
- ・ 北部地域の滞在期間調査では、3～4日が33.3%と最も多く、1～2日が31.3%、日帰り25.8%と続いた。

図:2-28 沖縄訪問回数(有効回答数=407)



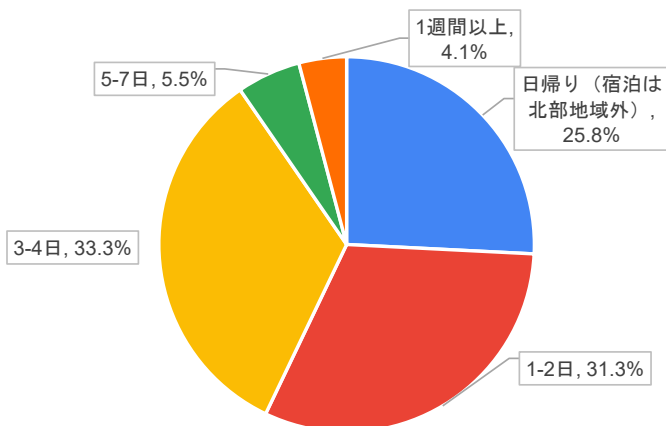
沖縄訪問回数	回答数	比率
初めて	62	15.2%
2回・3回	100	24.6%
4回・5回	64	15.7%
6回以上	181	44.5%
合計	407	100%

図:2-29 北部地域訪問回数(有効回答数=409)



北部地域訪問回数	回答数	比率
初めて	96	23.5%
2回	94	23.0%
3回	41	10.0%
4回	26	6.4%
5回	13	3.2%
6回以上	139	34.0%
合計	409	100%

図:2-30 北部地域滞在期間(有効回答数=415)



北部地域の滞在期間	回答数	比率
日帰り(宿泊は北部地域外)	107	25.8%
1-2日	130	31.3%
3-4日	138	33.3%
5-7日	23	5.5%
1週間以上	17	4.1%
合計	415	100%

◆移動手段

- 那覇空港～北部地域の移動手段調査では、「レンタカー」が336件と最も多く、次に「バス」が24件となった。
ちなみに、今回の調査で泊港から出港する高速船利用者はいなかった。
- 北部地域内の移動手段は、那覇空港からの移動手段と同様に、「レンタカー」が341件と最も多かった。

図:2-31 移動手段(那覇空港～北部地域)(複数回答)

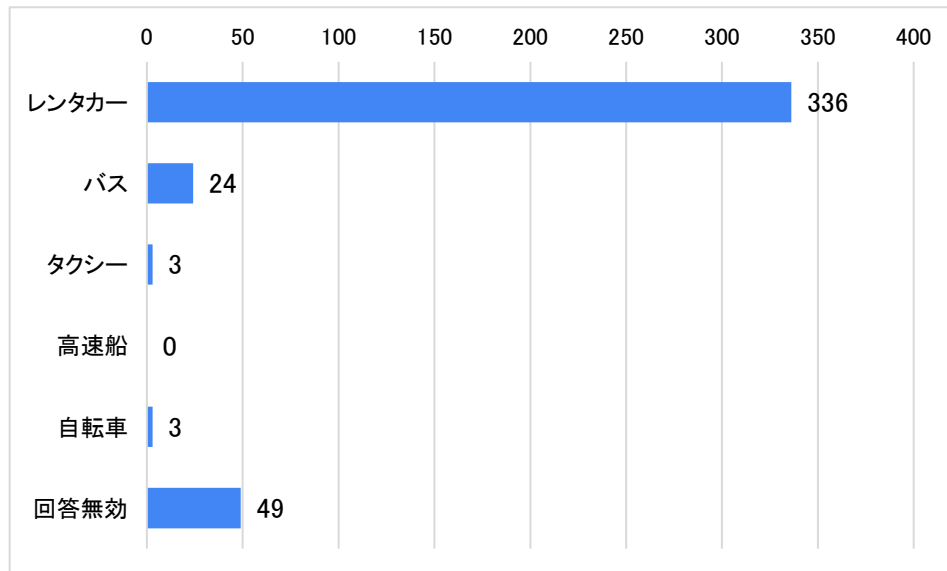
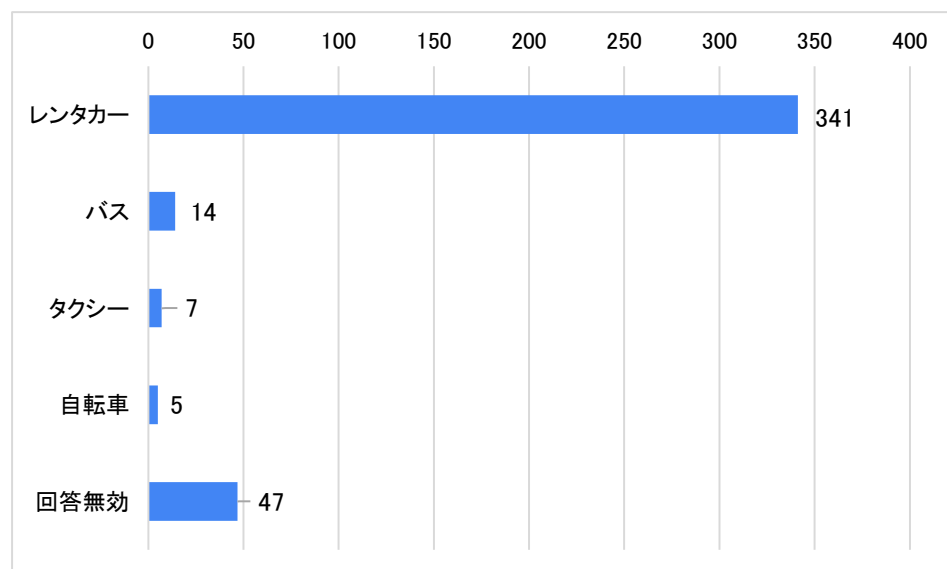


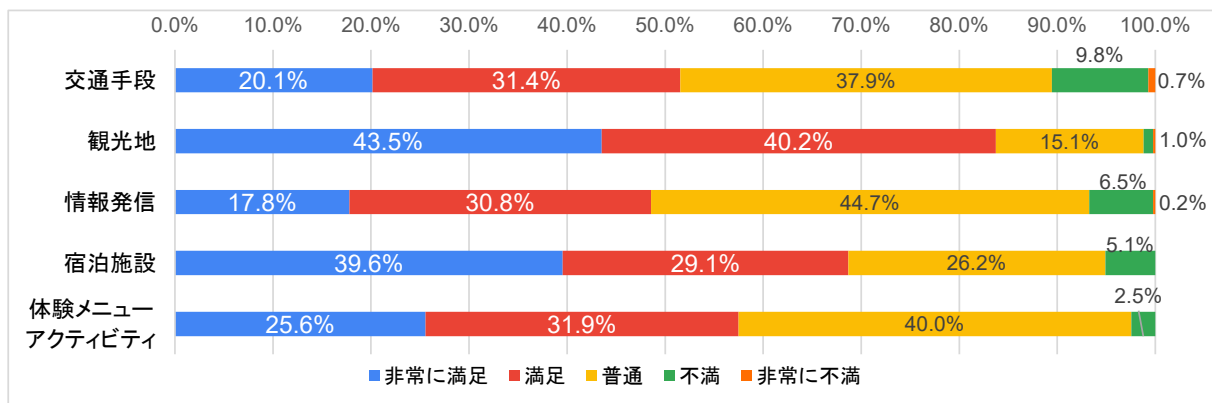
図:2-32 移動手段(北部地域内)(複数回答)



◆北部地域への満足度

- ・ 満足度調査において、「非常に満足」、「満足」の比率が高いのは、観光地(83.7%)、宿泊施設(68.7%)であり、低いのは交通手段「51.5%」、情報発信(48.6%)となっている。
- ・ 記述式の意見では、「非常に満足・満足」の回答者からは、「自然が残っている」、「沖縄らしさ」、「また訪れたいと思わせることが重要である」との意見があった。「非常に不満・不満」の回答者からは、「バスが分かりにくい」、観光地は「どこをまわればいいのか」、情報発信では「ガイドブックに掲載すべき」などの意見があった。

図:2-33 北部地域の満足度調査



北部地域の満足度調査で「非常に満足・満足」と回答した具体的な内容、出来事について(記述式)

交通手段	・ レンタカーだったので不便なく移動できた
観光地	・ 自然が残っており観光地化され過ぎていないところ
情報発信	・ 一番大事なのは、限られた日数、時間で訪れた観光地をまた訪れたいと思えるかだと思う 例えば一日の観光でこんなコースで楽しかった、満足した、感動した、また違ったコースで楽しみたいと思える事ではないか? そのような情報が沢山発信されれば、興味を持たれると思う
宿泊施設	・ 宿泊施設に関しては、一番は泊まって沖縄らしさを感じられるかだと思う ホテル、ビジネスホテル、旅館、民泊等それぞれ違って良いと思う その中に一番はずしていけない事は沖縄らしさである
体験メニュー	・ 自分自身の旅行で一番のお土産は体験である その地でしか出来ない体験やお持ち帰り出来る物などは、販売されているお土産より一番のお土産だと感じる

北部地域の満足度調査で「非常に不満・不満」と回答した北部地域の観光について改善すべきこと(記述式)

交通手段	・ バスが分かりづらい、乗り継ぎがスムーズに出来ない 運転免許がないと観光が楽しそう 観光客目線で言えばレンタカーでないと行けない地域という認識 気軽に外出し気軽にホテルへ帰れるような交通手段があるといいと思う
観光地	・ どこを回ればいいのかわからない、目玉になるものが少ない
情報発信	・ ガイドブックにもう少し記載すべき
宿泊施設	・ リゾートホテルばかりで高価 ビジネスホテルは、古すぎる
体験メニュー	・ アトラクションは都会に任せて、自然を体験できるアトラクションと案内が欲しい

◆来訪のきっかけ

- 観光客の来訪のきっかけについては、「観光地巡り」(259人)が最も多い回答となり、続いて「保養・休養」(105人)、「カフェ・飲食店を楽しむ」(99人)となった。
- 来訪のきっかけを選んだ理由については、「興味を持っているがまだ経験したことがない」(89人)が最も多い回答となり、「前回の訪問で気になっていた」(78人)が続いた。

図:2-34 来訪のきっかけ(有効回答数=408)(複数回答)

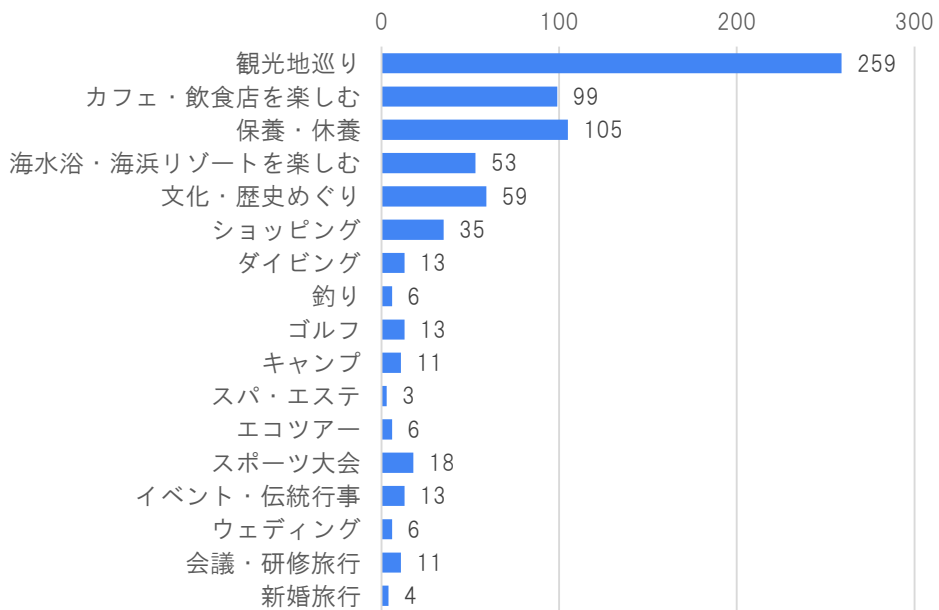
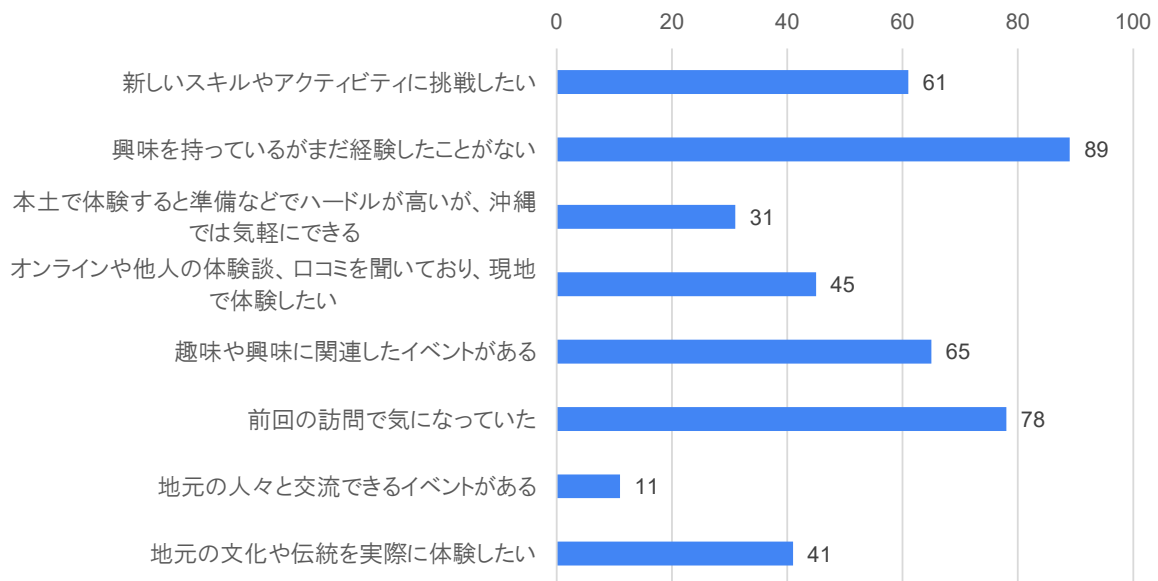


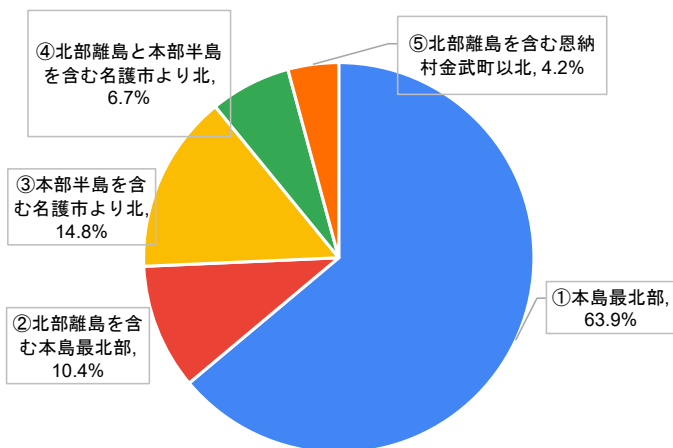
図:2-35 来訪のきっかけを選んだ理由(有効回答数=347)(複数回答)



◆やんばるの範囲・自由意見

- やんばるの範囲の認識調査では、「やんばる」を「本島最北部」(北部3村)と回答された方が63.9%と最も多く、北部離島を含む恩納村金武町以北と回答された方は4.2%と最も少なかった。

図:2-36 やんばるの範囲(有効回答数=403)



やんばるの範囲	回答数	比率
①本島最北部	257	63.9%
②北部離島を含む本島最北部	42	10.4%
③本部半島を含む名護市より北	60	14.8%
④北部離島と本部半島を含む名護市より北	27	6.7%
⑤北部離島を含む恩納村金武町以北	17	4.2%
合計	403	100%

※参考:アンケートに使用した「やんばるの範囲」

①本島最北部	国頭村、大宜味村、東村
②北部離島を含む本島最北部	国頭村、大宜味村、東村、伊江村、伊平屋村、伊是名村
③本部半島を含む名護市より北	名護市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、本部町
④北部離島と本部半島を含む名護市より北	名護市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、本部町、伊江村、伊平屋村、伊是名村
⑤北部離島を含む恩納村・金武町以北	名護市、国頭村、大宜味村、東村、今帰仁村、本部町、恩納村、宜野座村、金武町、伊江村、伊平屋村、伊是名村



表:2-26 自由意見概要

交通・アクセス関連	<ul style="list-style-type: none"> レンタカーがないと身動きが取れないことが多いので、そこを解決して欲しい 交通の便が、高速道路が伸びてだいぶ良くなったが、最北端までは行きづらい レンタカーを借りようになれば気軽にいけるようになったが、公共機関を利用して訪れるのは少し億劫になるかもしれない 何か良い解決策があれば便利だなと思う
マナー	<ul style="list-style-type: none"> 観光客を増やすことも経済的には大切かもしれないが、観光地以前に、そこには生活があること、住んでいる人たちがいること、観光客はあくまでもお邪魔している状態であることを忘れてほしいというアナウンスは必要なのかなと思う
観光施設	<ul style="list-style-type: none"> テーマパークが出来たら、混みそうだ ジャングリアの開演がとても楽しみだ 都市部から距離があるので、魅力ある施設の充実が必要

情報発信	<ul style="list-style-type: none"> ・ ヤンバルクイナをモチーフにしたキャラクターを作るとよりPRがしやすくなると思う ・ 行った方の多くの楽しい、また行きたい、という情報が聞けると訪れる回数も増えると思う
やんばるの環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然を大事にしながら、快適な観光がしたい ・ DXをうまく使ってもらいたい ・ あまり観光地化せずに原風景を残して欲しい ・ 自然を保存しながら、共同売店の良さがヒントだと思うが、ヤンバルしかない魅力を保ちながら、オーバーツーリズムにならない事を祈っている
飲食関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 活動と美味しい食べ物屋などあるといいなと思う ・ お刺身、お寿司の美味しい店があったら教えて欲しい
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・ ゴミ箱が多いと助かる ・ 観光地が少ない気がする ・ もう少しポイントごとトイレがあれば助かる

イ. 外国人観光客（22人）

◆属性

- アンケート回答者は男性の回答が多かった。年代については、「20代」(42.9%)が最も多く、次に「30代」(28.6%)、50代(14.3%)と続いた。
- 外国人観光客アンケートの回答者は「アメリカ人」(42.9%)が最も多く、「カナダ人」(14.3%)と続いた

図:2-37 性別(有効回答数=22)

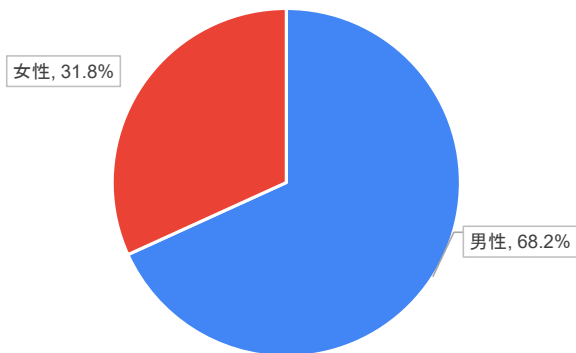


図:2-38 年代(有効回答数=22)

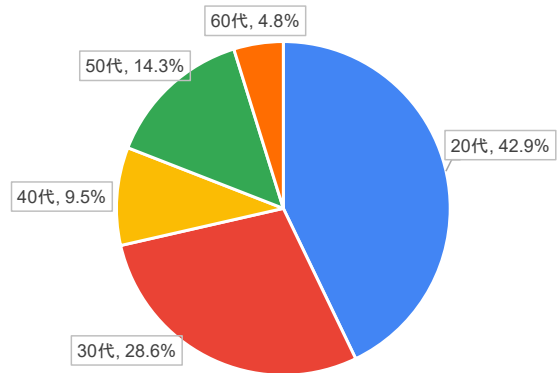
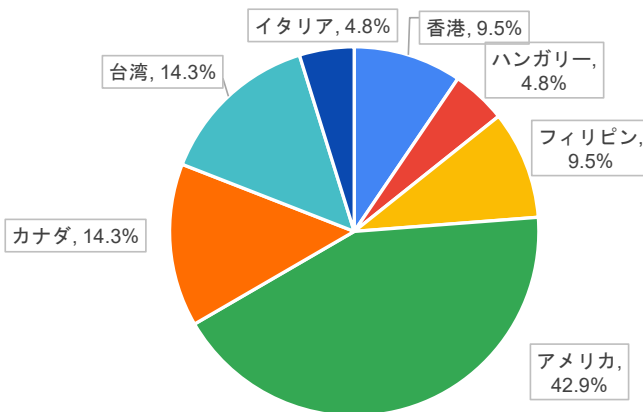


図:2-39 出身国(有効回答数=21)



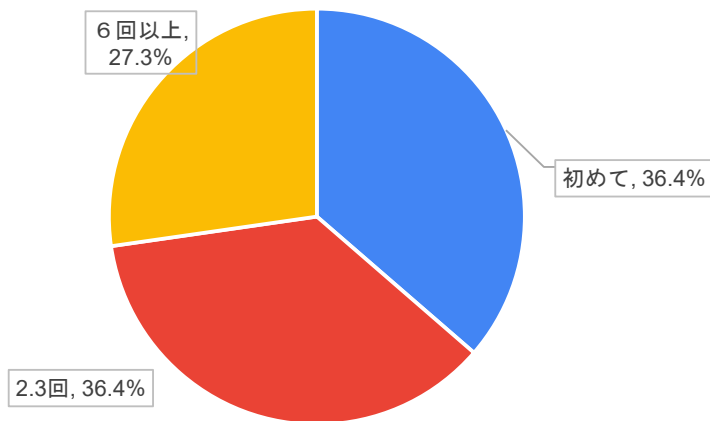
出身国	回答数	比率
香港	2	9.5%
ハンガリー	1	4.8%
フィリピン	2	9.5%
アメリカ	9	42.8%
カナダ	3	14.3%
台湾	3	14.3%
イタリア	1	4.8%
合計	21	100.0%

※グラフの数値：小数点第二位で四捨五入しているため、比率の合計は必ずしも100%にならない。

◆沖縄訪問回数

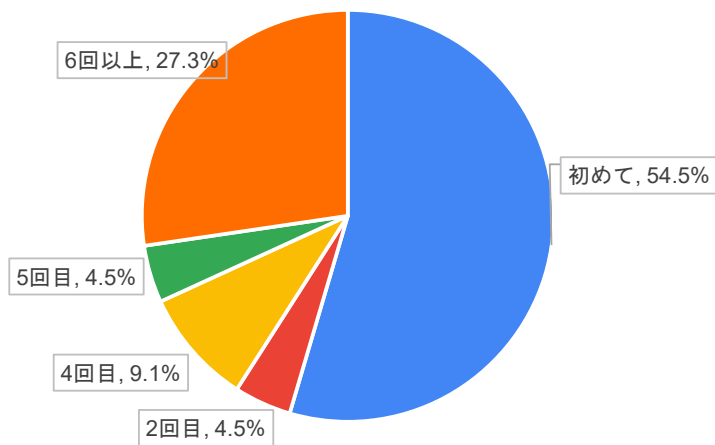
- ・ 沖縄県の訪問回数については、「初めて」と「23回」が同じ比率 36.4%となった。6回以上が 27.3%となった。
- ・ 北部地域の来訪については「初めて」(54.5%)が最も多かった。

図:2-40 沖縄訪問回数(有効回答数=22)



沖縄訪問回数	回答数	比率
初めて	8	36.4%
2回・3回	8	36.4%
4回・5回	0	-
6回以上	6	27.3%
合計	22	100%

図:2-41 北部地域訪問回数(有効回答数=22)



北部地域訪問回数	回答数	比率
初めて	12	54.5%
2回	1	4.5%
3回	0	0%
4回	2	9.1%
5回	1	4.5%
6回以上	6	27.3%
合計	22	100%

◆沖縄滞在・移動手段

- 北部地域の滞在期間については、「日帰り」(36.4%)が最も多く、続いて「3-4日」(31.8%)が続いた。
- 那覇空港～北部地域への移動手段は、「レンタカー」(12件)が最も多く、次に「バス」(4件)が続いた。高速船(1件)の使用はあった。
- 北部地域内での移動手段は国内客同様に「レンタカー」(15件)が多かった。次に自転車(4件)となった。

図:2-42 北部地域滞在期間(有効回答数=22)

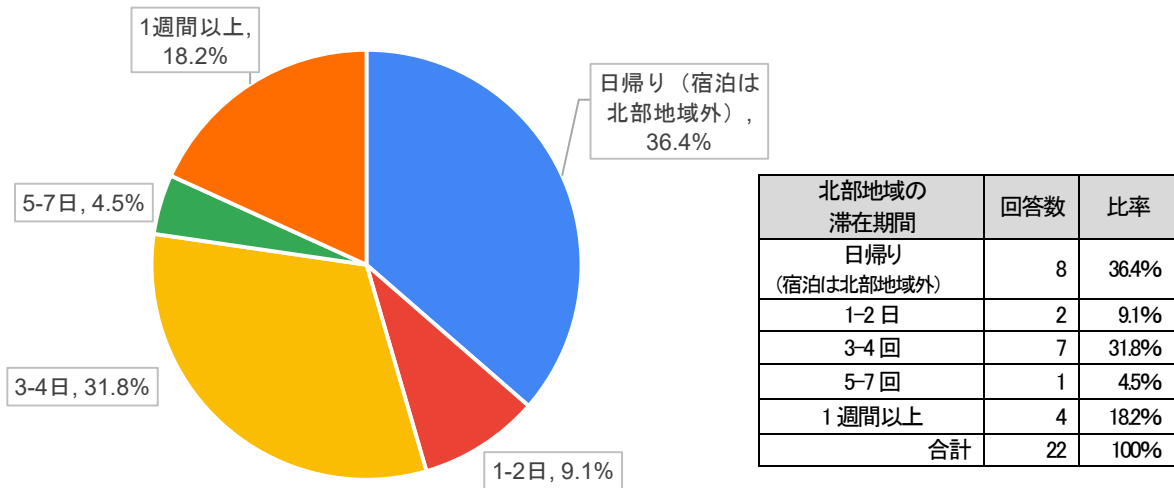


図:2-43 移動手段(那覇空港～北部地域)(複数回答)

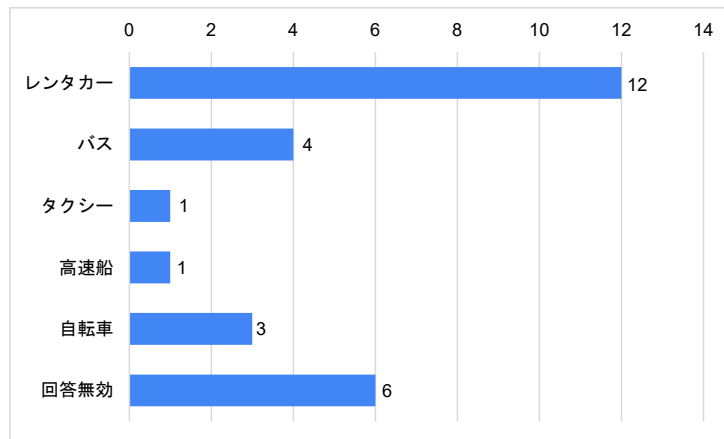
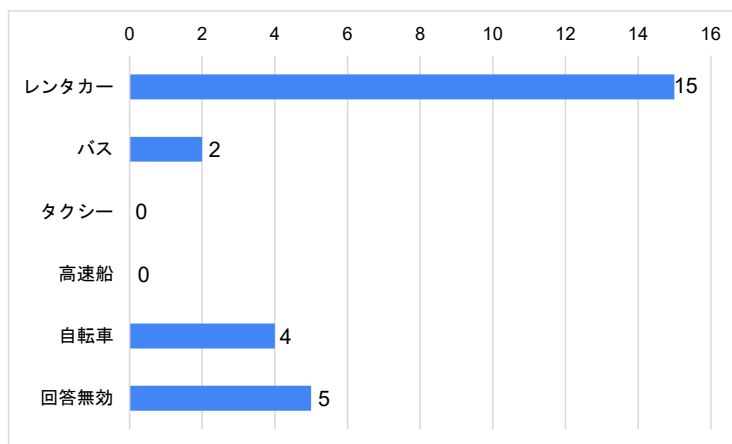


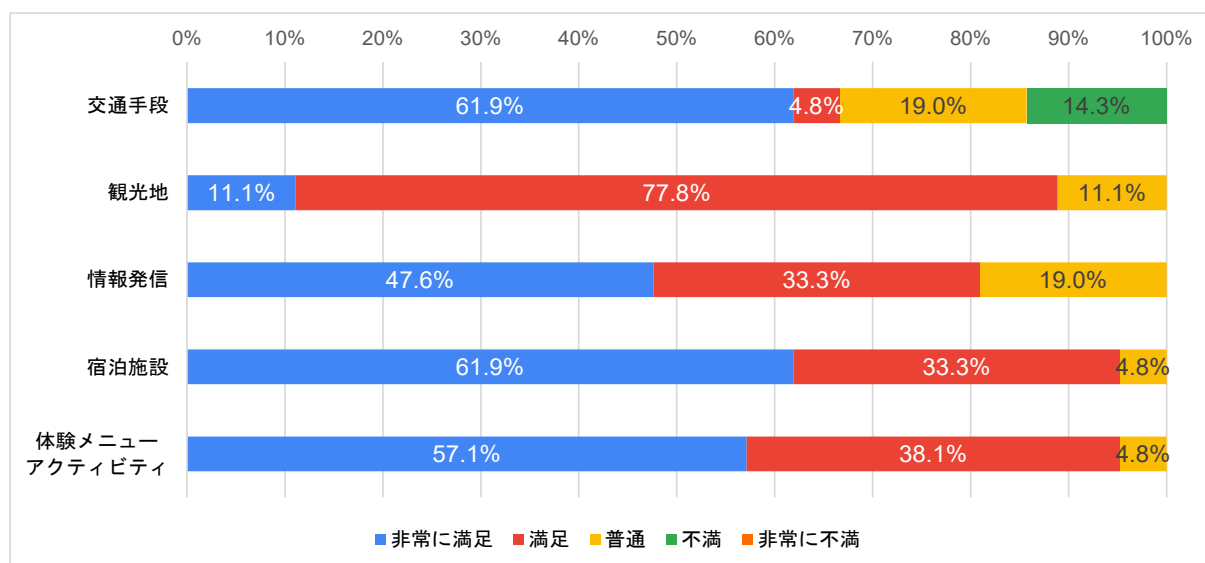
図:2-44 移動手段(北部地域内)(複数回答)



◆北部地域への満足度

- ・ 北部地域の満足度調査は、観光地を除いた全項目で「非常に満足」が最も多かった。
- ・ 「非常に満足」、「満足」の比率が高いのは、「宿泊施設」(95.2%)、「体験メニューアクティビティ」(95.2%)であった。比較的低いのは、「交通手段」(66.7%)であった。
- ・ 満足を選択した理由のコメントでは、道路や、観光地、ウェブやパンフレットの「情報発信」を称賛するコメントがあった。
- ・ 不満足を選択した理由のコメントでは、公共交通の課題があげられた。

図:2-45 北部地域への満足度調査



北部地域の満足度調査 「非常に満足・満足」と答えた回答者の具体的な内容、出来事について

(記述式)

交通手段	・ 私たちは那覇から自転車で移動しましたが、道路はとても滑らかだった
観光地	・ ビーチと沖縄の海が素晴らしい
情報発信	・ ウェブサイトとパンフレットが利用しやすい
宿泊施設	・ とても素敵なエリアで、とても清潔で、移動もとても簡単
体験メニュー	・ 野菜のような地元産品がよい

北部地域の満足度調査 「非常に不満・不満」と答えた回答者の北部地域の観光について改善すべきこと(記述式)

交通手段	・ 都市ではいつも交通渋滞があり、公共交通機関が少ない
------	-----------------------------

◆来訪のきっかけ

- 来訪のきっかけは「保養」(11人)が最も多く、「観光地巡り」(9人)、「カフェ・飲食店を楽しむ」(8人)、海水浴、海浜リゾートを楽しむ(7人)、エコツアー(7人)と続いた。
- 国内観光客と比較して、「保養・休養」(11人)が最も多く、「エコツアー」(7人)も人気が高い。
- 来訪のきっかけを選んだ理由は、「オンラインや他人の体験談、口コミを聞いており現地で体験したい」と「地元文化や伝統を実際に体験したい」というのが各7人と最も多く、「興味を持っているがまだ経験したことがない」と回答が最も多かった国内観光客と異なる結果となった。

図:2-46 来訪のきっかけ(複数回答)

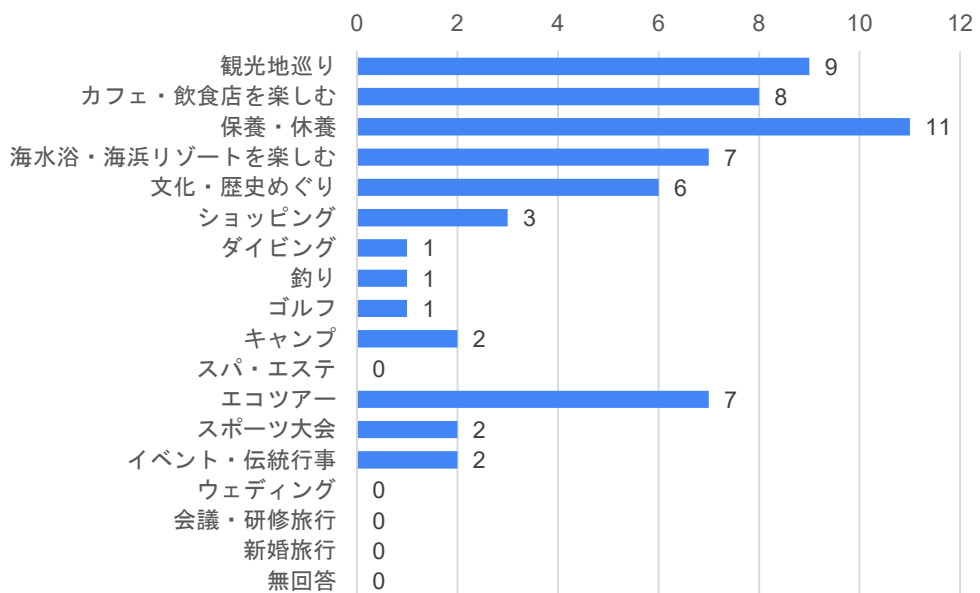
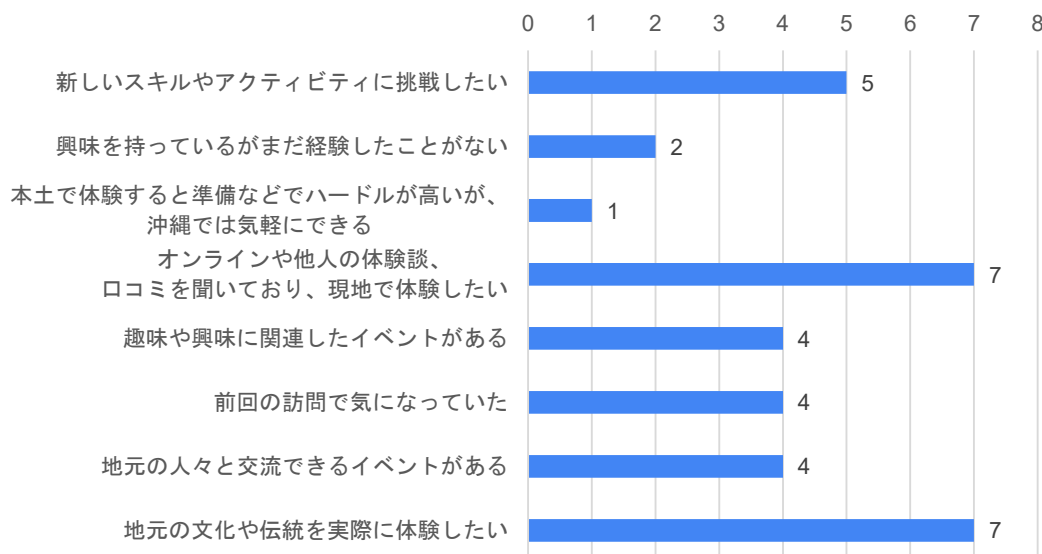


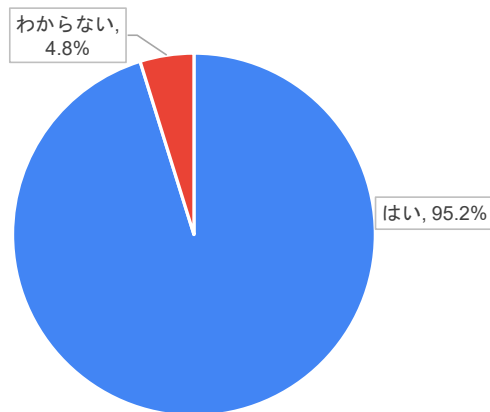
図:2-47 来訪のきっかけを選んだ理由(複数回答)



◆再来訪・やんばるの範囲

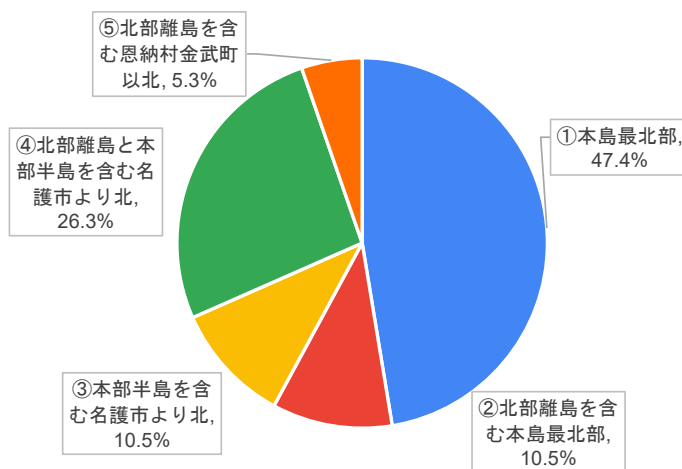
- ・ 再来訪については、95.2%が再来訪したいという気持ちがあり、国内観光客以上に高評価であった。
- ・ 「やんばるの範囲」についての認知度調査では、「最本島北部」(47.4%)が最も多い回答であり、まだ認知度は高まっていないようである。認知度は国内観光客とあまり変化はなかった。

図:2-48 再来訪の意図(有効回答数=21)



再来訪の意向	回答数	比率
はい	20	95.2%
わからない	1	4.8%
合計	21	100%

図:2-49 やんばるの範囲(有効回答数=19)※やんばるの範囲図は99ページを参照



やんばるの範囲	回答数	比率
①本島最北部	9	47.4%
②北部離島を含む本島最北部	2	10.5%
③本部半島を含む名護市より北	2	10.5%
④北部離島と本部半島を含む名護市より北	5	26.3%
⑤北部離島を含む恩納村金武町以北	1	5.3%
合計	19	100%

表:2-27 自由意見概要

- ・ もっといい公共交通が必要
- ・ 素晴らしい自然と野生動物
- ・ ロードトリップ(長距離運転)を楽しんだ

②事業者アンケート結果（33社）

◆属性

- ・ 事業者アンケートは、主に各観光協会を通して会員向けに実施した。
- ・ 体験事業者から宿泊事業者のほか、製造業や交通事業者なども含め、計33の事業者から回答を得られた。

図:2-50 業種(有効回答数=33)

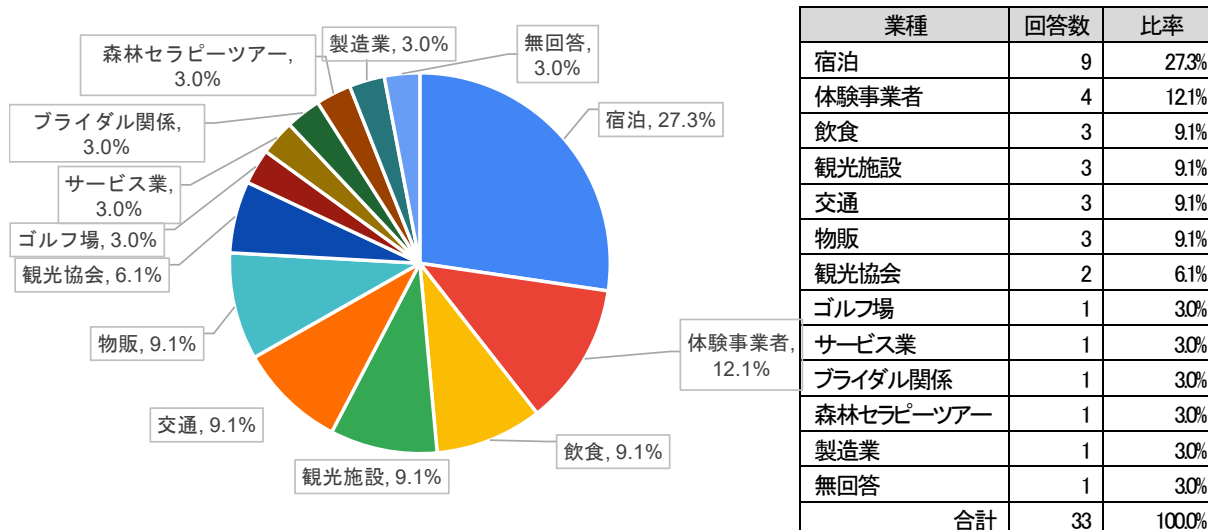
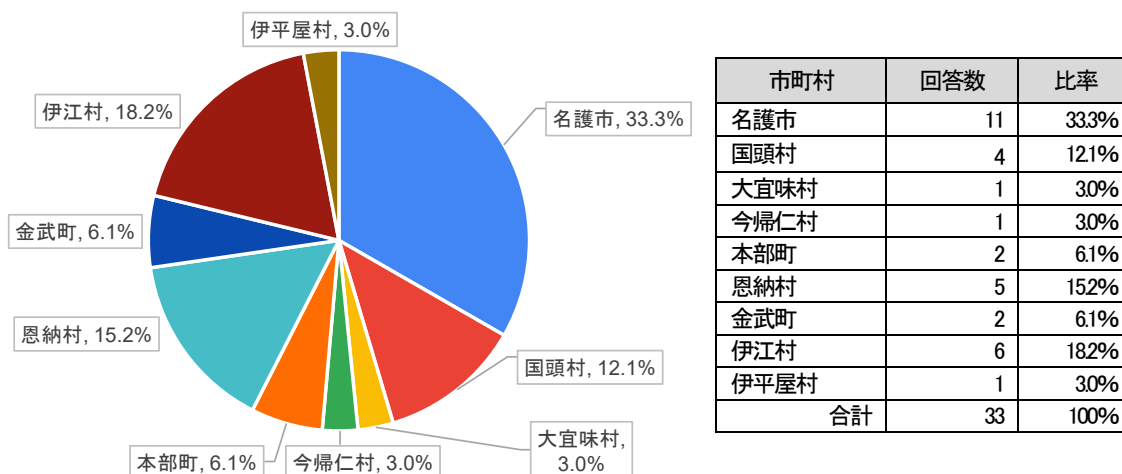


図:2-51 所在地(有効回答数=33)



※グラフの数値：小数点第二位で四捨五入しているため、比率の合計は必ずしも100%にならない。

◆経営状況

- 売上については、令和元年(2019年)と比較して「減少」(38.0%)していたが、「増加」(28.0%)もあった。
- 経営的な課題で最も多かった回答は、「従業員不足」(17件)であった。
- 従業員確保の課題として最も多かったのは、「若手社員(パート・アルバイト)の確保」(19件)で、次いで「外国語が話せる人材の確保」(16件)が多かった。

図:2-52 令和5年(2023年)の売上は令和元年(2019年)と比較(有効回答数=32)

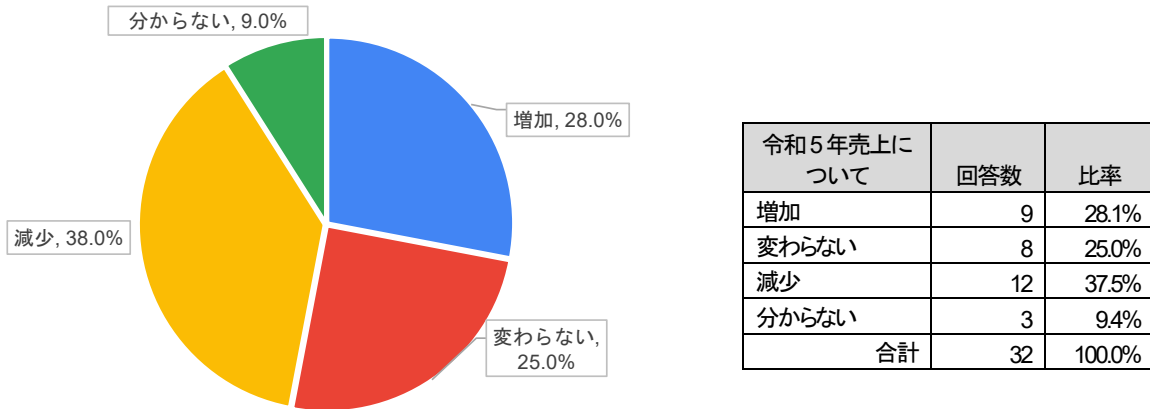


図:2-53 経営的な課題(複数回答)

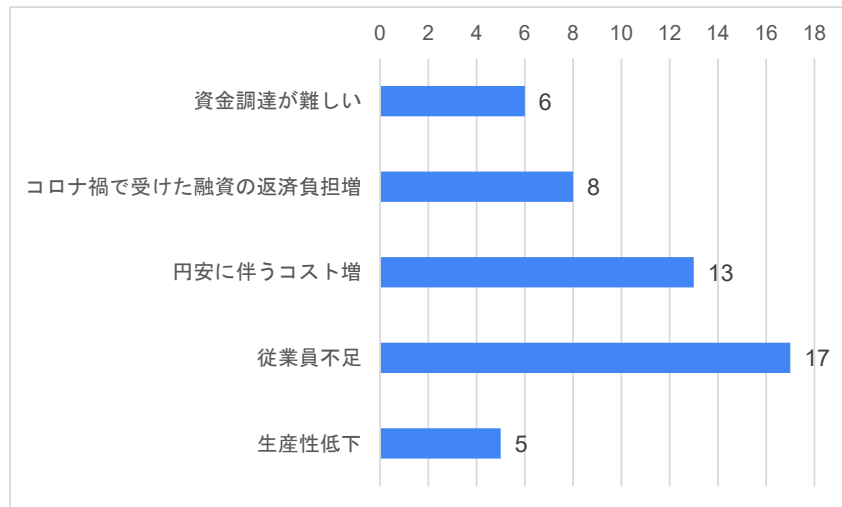
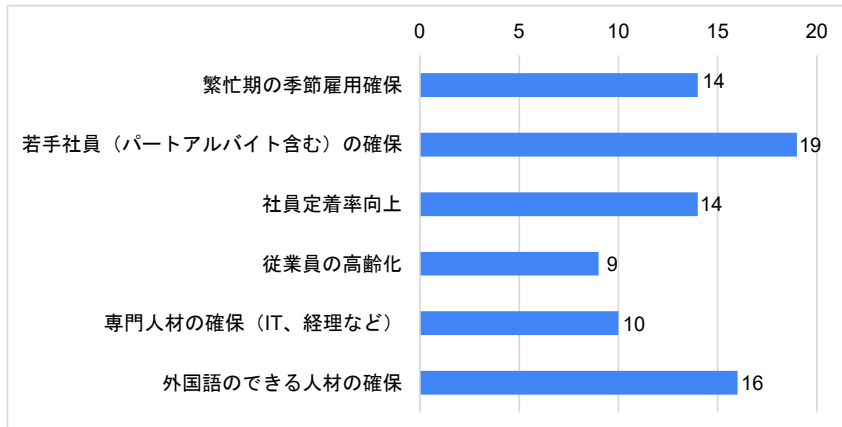


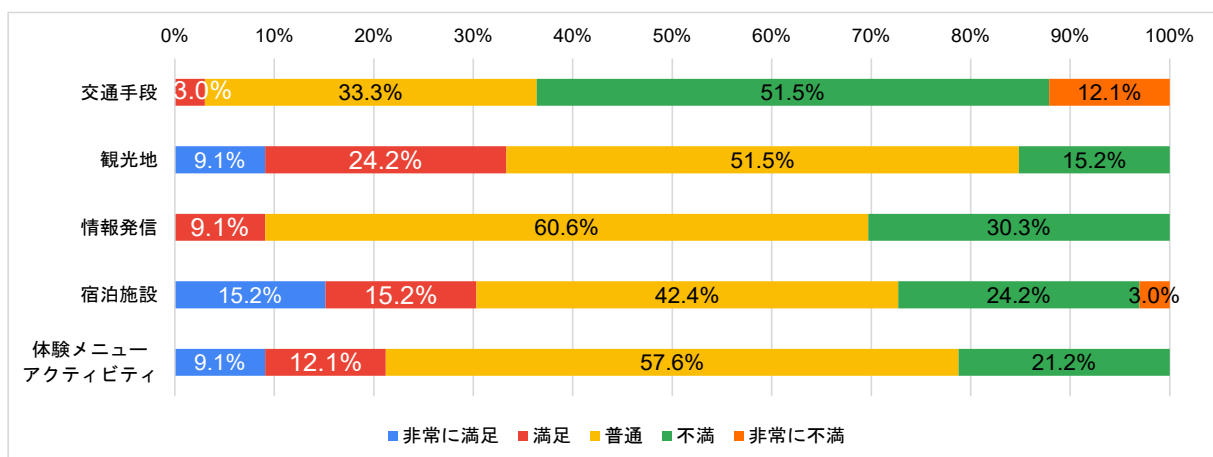
図:2-54 従業員確保の課題(複数回答)



◆北部地域への満足度

- 満足度調査において、「非常に満足」、「満足」の比率が多いのは、「観光地」(33.6%)、「宿泊施設」(30.4%)で、低いのは、「交通手段」(3.0%)、「情報発信」(9.1%)と両方とも「非常に満足」の回答は無い。
- 観光客アンケートと比較すると、満足は全体的に低い。
- 満足度調査のコメントでは、「非常に満足・満足」の項目からは「北部の魅力を活かした観光地」や、「宿泊の選択肢が多い」というコメントがあった。一方、「非常に不満・不満」の項目から、「アクティビティも北部 12 市町村にどんな業者がいて何をしているのか一目でわかるものがほしい」など「体験アクティビティ」への不満や、「北部地域の観光地を巡るバスがない。レンタカー頼み」といった「交通手段」への不満や、「情報の取りまとめが必要」など「情報発信」に対する不満があった。また、長年の課題となっている「天候不良時に使用できる施設が少ない」といった観光施設の課題などがあげられた。

図:2-55 北部地域の満足度(有効回答数=33)



各項目に関する「非常に満足・満足」コメントの抜粋(資料編参照)

観光地	・ 美ら海水族館をはじめ、北部の自然を生かした観光地がある
体験メニュー	・ 種類が豊富
宿泊施設	・ 施設数が多く、選択肢がある

各項目に関する「非常に不満・不満」コメント抜粋(資料編参照)

交通手段	・ 船の時間にバスが来ない ・ 連結が回っていない ・ 北部地域の観光地を巡るバスがなくレンタカー頼み
観光地	・ 天候不良時に使用できる施設が少ない
情報発信	・ SNS 発信、とりまとめが必要(全国、世界向けメディア発信や SNS での海外発信)
宿泊施設	・ 東村、大宜味村、国頭村の宿泊施設が少なすぎる
体験メニュー	・ アクティビティも北部 12 市町村にどんな業者がいて何をしているのか一目でわかるものがほしい。上記の北部観光情報サイトでそちらもとりまとめ一目でわかるとよい

◆持続可能な観光地をつくる取り組み

- 必要なDX項目では、「観光関連データ(宿泊、人流データなど)」(26.7%)が最も多く、次に「SNSマーケティング」(20%)、「関係機関(観光協会・自治体など)の連携強化」(20%)と続いた。
- 「持続可能な観光地を創るための必要な取り組み」については、「マナーやルール作り」(42.4%)が最も多く、続いて、「観光客との交流」(24.2%)、「観光消費拡大」(21.2%)と続いた。
- DMOに対する要望としては、「交通関連」、「データマーケティング・ブランディング」、「計画」、「拠点整備」、「地域連携」、「着地型商品」があげられた。

図:2-56 必要なDX項目(有効回答数=30)

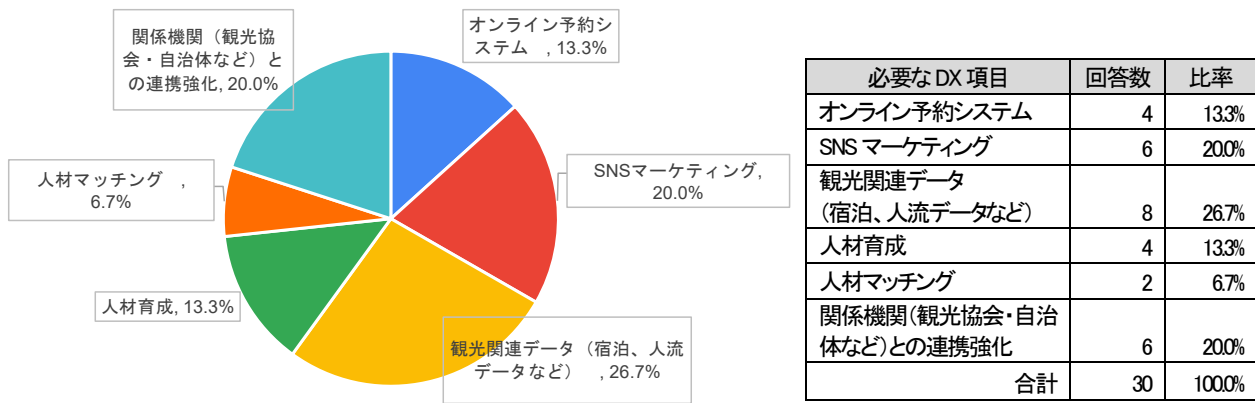


図:2-57 持続可能な観光地を作るための必要な取り組み(有効回答数=33)

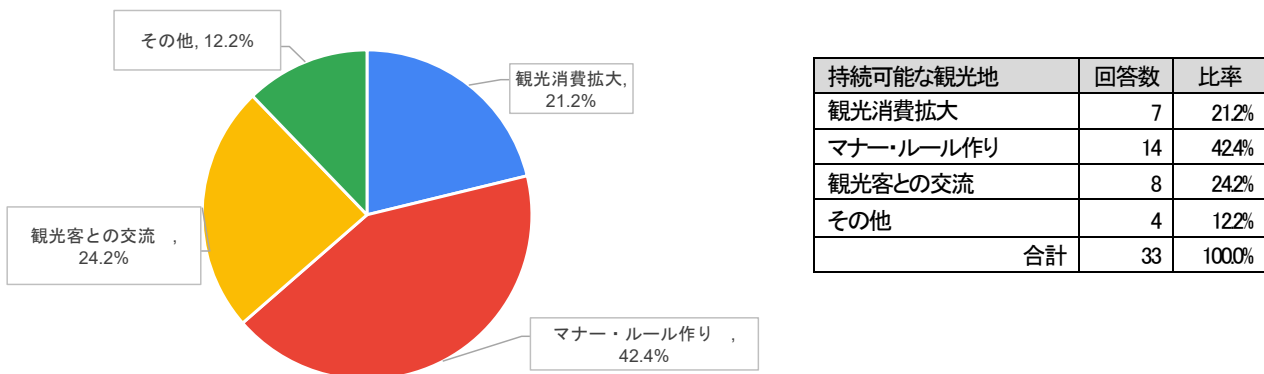


表:2-28DMOに対する要望(一部抜粋)

計画	<ul style="list-style-type: none"> 周遊型観光、やんばる観光の政策立案等 12市町村連携の共通観光施策
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 観光の現場で働いている人材への各地域の観光情報の共有 北部のローカルリズム、コミュニティリズムの確立
データマーケティング・ブランディング	<ul style="list-style-type: none"> 正確なデータがほしい。

	<ul style="list-style-type: none"> 市町村ごとに必要とされている業種などのデータや各市町村に合うブランディング基礎の構築
着地型商品	<ul style="list-style-type: none"> 地域参加型のアクティビティ
拠点整備	<ul style="list-style-type: none"> 最北部に観光拠点が欲しい
交通関連	<ul style="list-style-type: none"> やんばるの周遊パスの導入、道路拡張、鉄道 「ジャングリア」オープンに向けた道路整備の促進の推進役

表:2-29 自由意見概要

交通整備	<ul style="list-style-type: none"> やんばるを簡単に移動できる交通手段が増えてくれればありがたい 渋滞対策と経済対策 海外沿いの整備
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全ができればおのずと観光客の目的地となるのではないかと 自然と都市開発の区分化を進めてほしい
情報発信	<ul style="list-style-type: none"> 12市町村の日ごとの地域のイベントや催しが各市町村のサイトに入らなくても一目でわかるような12市町村を取りまとめたサイトがあるとありがたい 離島の紹介
地域連携	<ul style="list-style-type: none"> 市町村の垣根を越えて一丸となって取り組んでいきたい 12市町村の密な連携の活発化
観光施策	<ul style="list-style-type: none"> 北部離島地域への観光客の誘導策の推進 自然を生かした観光など 観光客がゆっくり滞在しても飽きないメニュー・バリエーションのある観光地づくり 自然環境の保持と今後のオーバーツーリズムを懸念

③住民アンケート結果

◆属性

- ・ 住民アンケート回答者は男性が若干多く、年代は40代(24.6%)、20代(20.3%)、50代(18.9%)の順で多かった。
- ・ アンケート回答は北部12市町村全てから得られ、最も回答が多かったのは恩納村で24%(104人)、次に名護市18%(75人)、本部町14%(59人)、今帰仁村13%(54人)となった。

図:2-58 回答者の性別(有効回答数=430)

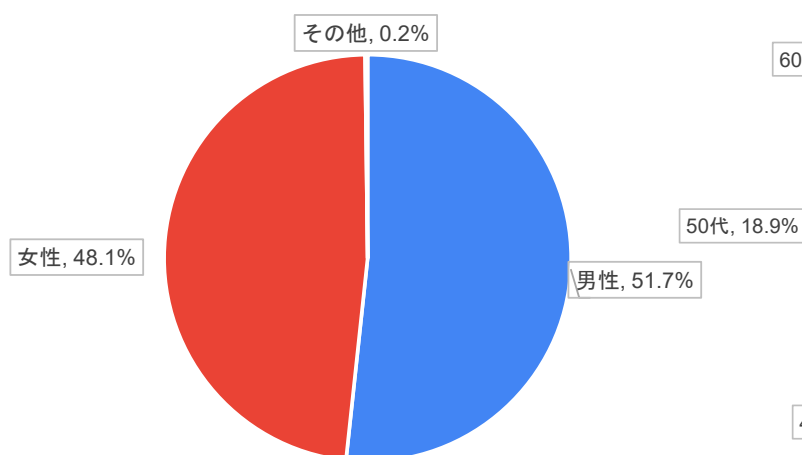


図:2-59 回答者の年代(有効回答数=430)

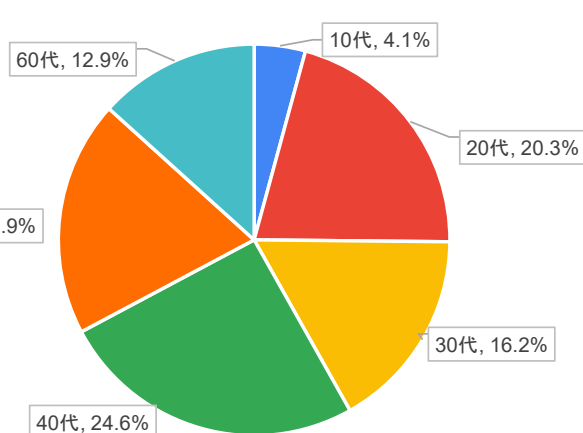
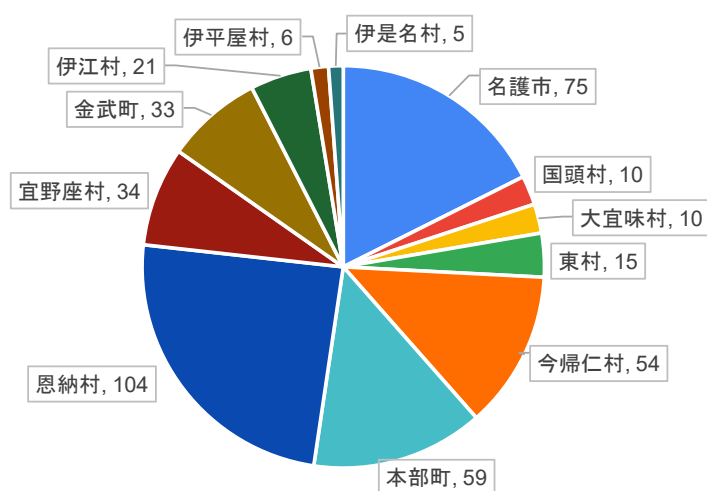


図:2-60 回答者の市町村比率(有効回答数=426)



市町村	回答数	比率
名護市	75	17.6%
国頭村	10	2.3%
大宜味村	10	2.3%
東村	15	3.5%
今帰仁村	54	12.7%
本部町	59	13.8%
恩納村	104	24.4%
宜野座村	34	8.0%
金武町	33	7.7%
伊江村	21	4.9%
伊平屋村	6	1.4%
伊是名村	5	1.2%
合計	426	

※グラフの数値: 小数点第二位で四捨五入しているため、比率の合計は必ずしも100%にならない。

◆北部地域の満足度

- 北部地域の満足度調査において、経済環境では「非常に満足・満足」の合計(23.1%)よりも「非常に不満・不満」の合計(26.2%)の方がやや大きい結果となった。また、「非常に不満・不満」の合計(26.2%)が3つの調査の中で最も大きい。
- 自然環境では、「非常に満足・満足」の合計が73.2%となっており、満足度は高い。
- 住環境は、「非常に満足・満足」の合計で45.3%となっている。
- 北部地域の観光の現状については、「やや好ましい」(31.5%)が最も大きく、「好ましい」(23.5%)が続いた。
- 「好ましい・やや好ましい」の合計(55.0%)の方が、「あまり好ましくない・好ましくない」の合計(23.5%)を上回っている。

図:2-61 北部地域の満足度

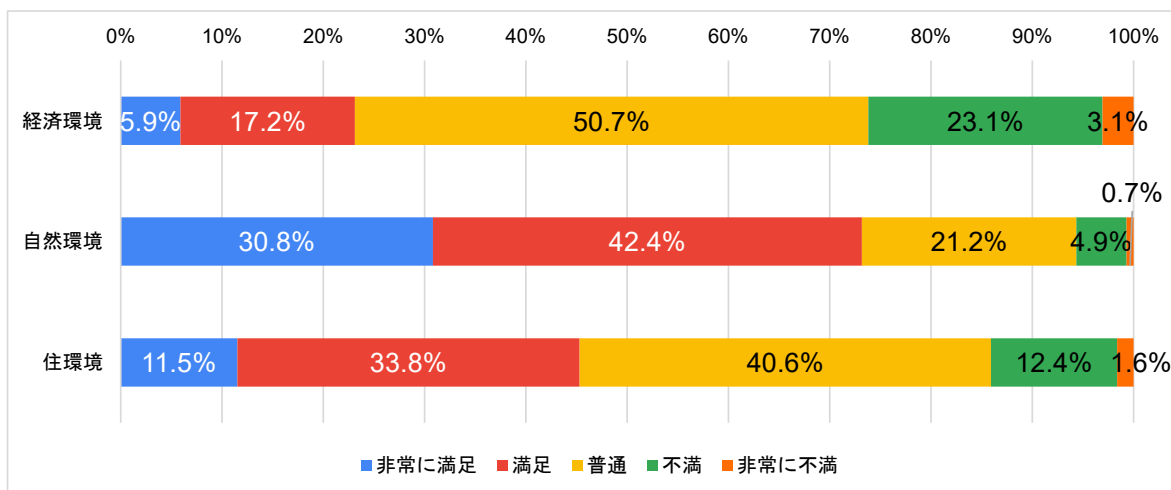
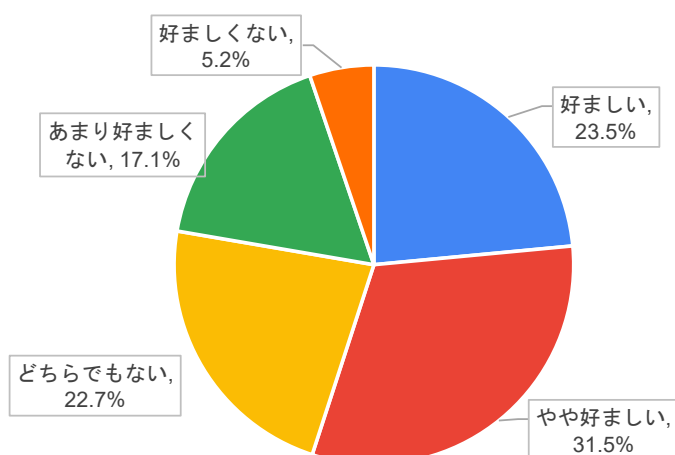


図:2-62 北部観光の現状について(有効回答数=427)



観光の現状	回答数	比率
好ましい	100	23.5%
やや好ましい	135	31.5%
どちらでもない	97	22.7%
あまり好ましくない	73	17.1%
好ましくない	22	5.2%
合計	427	100%

◆北部地域における重要度・達成度

- 項目別「重要度・達成度」については、「重要度」の回答はどの項目においても「非常に重要である」が最も高いが、「達成度」では、「どちらでもない」の回答が最も高くなっている。
- 数値をみていくと、「①県民や観光客が渋滞に巻き込まれず、目的地まで円滑に移動できること」の質問項目で「非常に重要である」と回答した方が65.4%おり、「③豊かな自然環境に配慮し、環境と共生した持続可能な観光が推進されていること」で、「非常に重要である」と回答した方は57.3%と、「交通」と「持続可能な観光」に関心の高さが伺える。
- 一方、「②北部地域のある観光地・観光地施設へ一極集中するのではなく、離島含めた各地に分散され、周遊足されていること」について、「非常に重要である」と回答した方は36.3%と他質問項目と比べて関心が薄いと考えられる。
- 達成度については、「十分に達成している・達成している」の合計値が高いのは、「④芸能・世界遺産などの魅力ある沖縄文化が、保全・継承され、観光資源として広く活用されていること」(30.0%)、「③豊かな自然環境に配慮し、環境と共生した持続可能な観光が推進されていること」(26.9%)である。「未達成・あまり達成していない」の合計値が高いのは、「②北部地域のある観光地・観光施設へ一極集中するのではなく、離島含めた各地に分散され、周遊促進されていること」(46.4%)、「①県民や観光客が渋滞に巻き込まれず、目的地まで円滑に移動できること」(44.2%)ある。交通については、重要度も高い上に達成率が低いという意識が表れている。

表:2-30 重要度・達成度

質問項目	重要度					達成度					
	重要ではない	それほど重要ではない	どちらでもない	重要である	非常に重要である	未達成	あまり達成していない	どちらでもない	達成している	十分に達成している	
交通	①県民や観光客が渋滞に巻き込まれず、目的地まで円滑に移動できること	3.3%	2.8%	6.5%	22.0%	65.4%	15.0%	29.2%	33.2%	16.1%	6.5%
周遊分散	②北部地域のある観光地・観光施設へ一極集中するのではなく、離島含めた各地に分散され、周遊促進されていること	5.2%	5.9%	23.2%	29.5%	36.3%	16.4%	30.0%	37.5%	11.5%	4.7%
持続可能な観光	③豊かな自然環境に配慮し、環境と共生した持続可能な観光が推進されていること	2.3%	3.3%	13.1%	23.9%	57.3%	13.9%	23.1%	36.2%	20.5%	6.4%
文化の資源活用	④芸能・世界遺産などの魅力ある沖縄文化が、保全・継承され、観光資源として広く活用されていること	1.6%	3.3%	16.7%	27.5%	50.9%	11.0%	22.2%	36.8%	21.8%	8.2%
観光産業活性化	⑤年間を通して観光収入を安定的に確保するため、産業活性化や雇用創出に取り組むこと	4.7%	4.5%	13.8%	24.9%	52.1%	15.4%	27.8%	36.2%	15.2%	5.4%

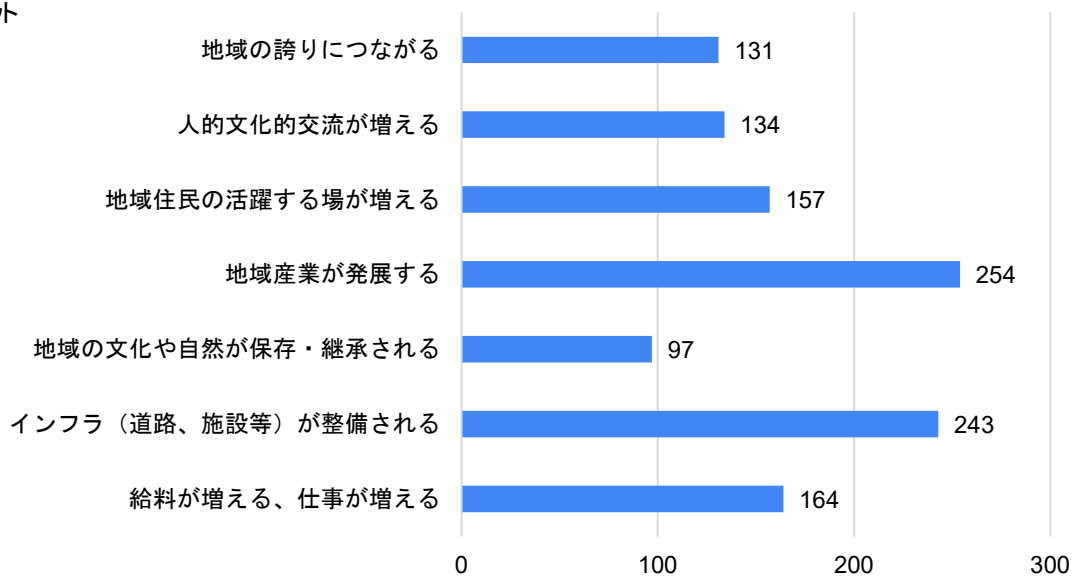
※意見が多い順に色分け 1番多い ■ 2番 ■ 3番 ■ 4番 ■ 5番 ■

◆観光客増加に伴う自身の生活の影響

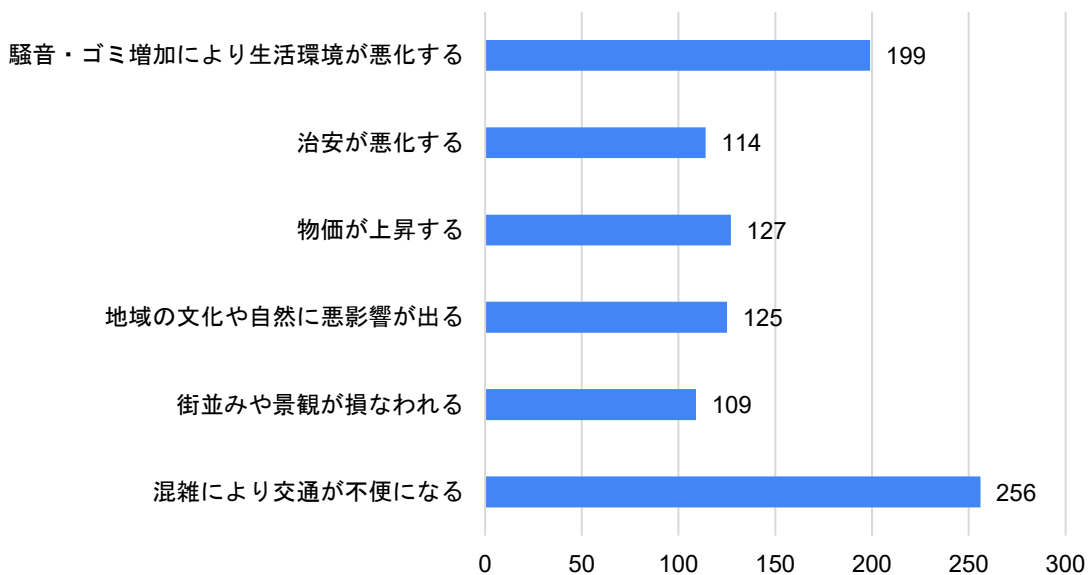
- ・ 「観光客が増えることであなたの生活にどのような影響が出るか」の調査では、メリットは、「地域産業が発展する」(254件)、「インフラが整備される」(243件)の回答が多く、デメリットは、「混雑により交通が不便になる」(256件)、「騒音・ゴミ増加により生活環境が悪化する」(199件)の回答が多かった。
- ・ メリット・デメリットをみた場合、メリットの面では「インフラ(道路・施設など)が整備される」が多いことに対し、デメリットの面では、「混雑により交通が不便になる」が多く、交通機関が生活に大きく影響することが伺える。
- ・ 意見が少なかったのは、「地域の文化や自然が保存・継承される」(97票)と「街並みや景観が損なわれる」(109票)となった。

図:2-63 観光客増加に伴う、自身の生活の影響について(複数回答)

メリット



デメリット



◆持続可能な観光地を作る取り組み

- 「持続可能な観光地を作るための必要な取り組み」では、「マナー・ルール作り」(62.6%)が最も多く、次に観光消費拡大(13.5%)となった。
- 「やんばるの範囲」についての認知度調査では、「本島最北部」の回答(41.2%)が最も多い。
- 自由意見では、利便性向上を希望する「アクセス・交通・インフラ」や、観光客のマナー、自然を活かすべきという「環境保全」など、多くの意見が得られた。

図:2-64 持続可能な観光地を作るための必要な取り組み (有効回答数=424)

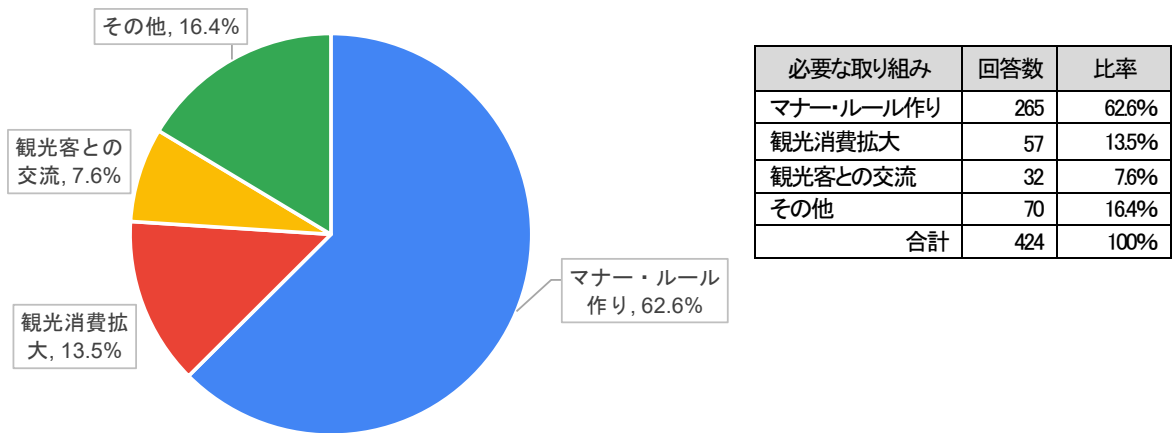


図:2-65 やんばるの範囲 (有効回答数=427) ※やんばるの範囲図は99ページを参照

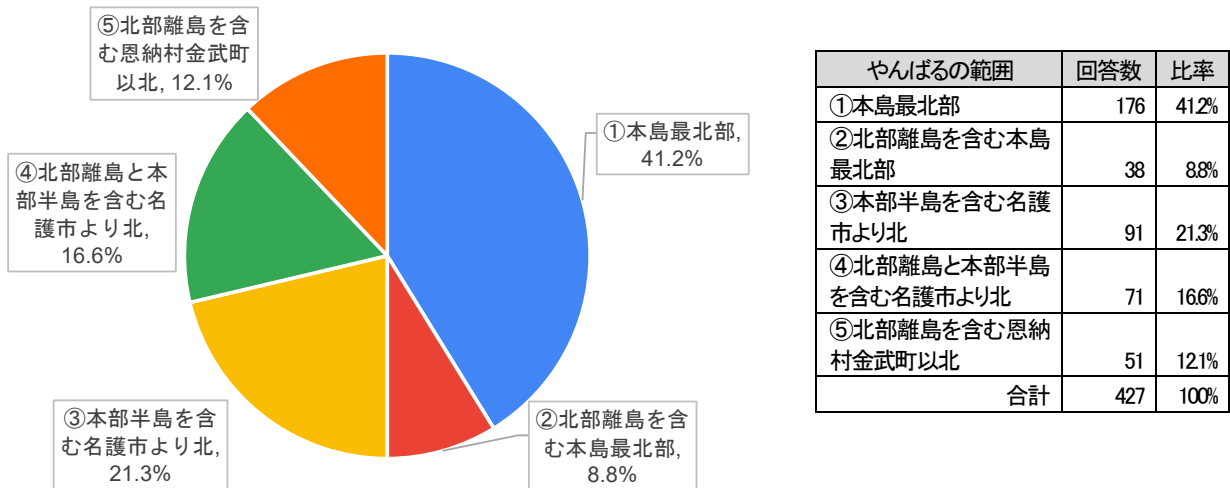


表:2-31 自由意見(北部地域の観光について)

アクセス・交通・インフラ関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 北部の観光拠点は分散しており、その拠点間を結ぶ、交通インフラが未整備 ・ 高速の終点の許田の混雑の解消、許田から北向けの58号の混雑の解消が重要 ・ 渡久地港から出る高速船の、早い時間帯がないので利用したくても都合が付きにくい ・ 渡久地港発の便数を増やして欲しい ・ レンタカーが今後過剰に増えないよう、公共交通機関の機能強化
マナー関連	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自然を壊すことなく、共存していくような観光地。それに伴う道路整備等のインフラ整備の両方をバランスよく発展させてほしい。また一部の山にはガイドを付けないと入れない様にする等のルール作りを作ってほしい ・ 民泊について北部で一貫した改善を希望。ルールを守らない(騒音、衛生)民泊が増えると安っぽい観光地になる。 ・ 資源維持のために、海の負担軽減策、利用制限、採取制限などルール作りが必須
施設整備	<ul style="list-style-type: none"> ・ これからジャングリアが建設されるのを期待している。沖縄県にテーマパークができるなんて、夢みたいだ ・ 古宇利島沖に巨大なポンツーンを設置する計画があるが、北部地域を好んで来ている観光客の声としてそのような人工的施設を望んでいない ・ 日帰り入浴施設の整備。ワーケーション(高速ネット、テレビ会議ができる防音室)ができる公共施設の整備
環境保全	<ul style="list-style-type: none"> ・ リゾート地としての観光整備ではなく、やんばるの自然や魅力を活かし、環境に最大限配慮出来る観光発展を期待している ・ 海は大事だと言いながら放置ゴミ拾いはほぼボランティアで行われていて疑問。美しい景観のために、予算化していくべきだ。箱物ばかりでは心もとない
修繕	<ul style="list-style-type: none"> ・ 道路案内板の劣化等により擦れや案内先の文字が読めない箇所が北部だけでも至る所に見られ、観光立県を謳っている沖縄県として、早急に改善すべきである
観光地域づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観光の活性化を考えるのであれば環境税等の導入を含めて地域へ還元できる持続可能な政策を検討して欲しい ・ 持続可能な観光地を目指すなら、周遊環境の整備は必須だと考えている ・ 観光客が増えているのは良い事だが、観光地では観光客向けの金額で県民、地元民にとつたら金銭的に高い。せめて県民割、地元民割引などあれば良いがそういう還元等は何処にもない
観光振興施策	<ul style="list-style-type: none"> ・ お客さんは行政区分を考慮しないので、自治体単位でなくやんばる全体としてのグランドデザインが必要である ・ 環境保全と観光は相反する。様々な観光地の例を見ても明らか。何も変わらないことに価値を見出すべき。インバウンドより1次産業に力を入れてほしい ・ 早めにジャングリアとの連携方法を考えて行動を起こすこと ・ 域外資本と地元資本の融合推進、地元観光事業者、飲食事業者専用 OTA 開発運用で中小零細事業者の活性化が計れるのではないかと？計画的で迅速な道路網の整備推進が必須 ・ レンタカーに頼った観光がメインなので、渋滞・事故の発生、免許未保有者の沖縄離れ、レンタカー不足といった問題が地元住民や将来的な観光にも影響を及ぼす。やんばるは自動運転特区などにして、免許のいらぬ自動運転型のEV タクシーやバスを走らせてもよいのではないかと
観光地魅力づくり	<ul style="list-style-type: none"> ・ やんばるの自然を、魅力ある観光資源として、節度を持って開発しようとする志を感じない。羽地内海や乙羽岳はもったいないと思う ・ 今帰仁城を再現希望。 ・ 藍染、塩田、黒糖作り、芭蕉布など、短時間では終らず、何度も足を運び、人間関係ができていく中で製品が出来ていくような、少し手応えのある体験需要も存在すると思う
人材不足	<ul style="list-style-type: none"> ・ タクシー人員不足、教育不足 ・ 伊是名では観光協会や青年会に観光の負担が集中し、家庭の時間が疎かになるケースが多いため、外部の会社とも提携して節度ある交流にしてほしい